

『大乘院寺社雑事記』にみえる茶史料

中 村 修 也

Tea historical materials seen “Daijoin-jishazojiki” 大乘院寺社雑事記

Shuya Nakamura

From the full text of the “Daijoin-jishazojiki” (大乘院寺社雑事記), relevant historical materials about tea were retrieved. Daijoin is a semiautonomous subtemple of Kofuku-ji 興福寺. The “Daijoin-jishazojiki” is a diary of a temple which Jinson (尋尊), a priest of Daijoin (大乘院), wrote between 1456 and 1508. The period this record was written in overlaps with the period in which Juko (珠光), the originator of Wabi-cha (わび茶), lived. It is therefore considered that, it is an important and basic historical material, revealing how the tea ceremony about tea can be known in this period. The following three things understood. First, it was that it was generally used as a gift. Second, that “Hiki-cha” (引茶) was not a present but the tea ground by a handmill. Third, the price of tea in those days can be known. Individual of research. The temple which produces tea can be considered as a future subject.

一、『大乘院寺社雑事記』と茶の湯

「茶の湯」というと、現在においては、一般的にはわび茶を意味する。わび茶というのは、抹茶を草庵風茶室で飲むことと、その一連の作法をさす。わび茶の祖は珠光ということになっている。珠光の生没年は、応永三十年（一四三二）から文龜二年（一五〇二）とされる。珠光の生きた時代を考えると、十五世紀後半に「わび茶」なるものが、誕生したことになる。十五世紀末と限定してもよいかもしれない。

この時期の史料として、ここにとりあげた『大乘院寺社雑事記』（以下、『雑事記』と略す）が存在する〔註一〕。『雑事記』は宝徳二年（一四五〇）から大永七年（一五二七）までの大乘院の寺務日記である。その執筆期間は、完全に珠光の生きた期間をカバーしている。

それゆえ、『雑事記』に描かれた社会相は、珠光の生きた社会相そのものとなる。ここから、わび茶なるものが発生した社会相を見出す事ができるかも

しない。

大乘院は、奈良・興福寺の門跡寺院の一つである。興福寺には一乗院と大乘院の二つの門跡寺院があった。両門跡ともに興福寺に属するものの、別格寺院として独立寺院としての格を有した。一乗院には近衛流の、大乘院には九条流の摂関家子弟が入った。

大乘院は、権大僧都隆禪が興福寺の東方に創建したのが始まりである。しかし、源平の戦火で焼失し、信円が元興寺別院の禅定院を大乘院家に定め、以後、奈良南郊に大乘院郷が發展することになった。

『雑事記』は、第二十七代門跡の尋尊と第二十八代門跡政覚・第三十代経尋の三人の日記をまとめたものであるが、後の二人の分量は少なく、圧倒的に尋尊の記した文書を元になっている。尋尊は、最初、宝徳二年（一四五〇）に『寺務方諸廻請』を書き始め、康正二年（一四五六）二月に別当に任じられるとともに、本格的に日記を書き出した。ついで、長祿三年に別当を退くと、『寺社雑事記』として、永正五年（一五〇八）まで、ほぼ四十九年間、書き継い

だ。それゆえ、『雑事記』を尋尊の寺務日誌を中心に考えることも、それほど的外れでもない。

さて、尋尊の簡単な経歴をみておこう。彼は永享二年（一四三〇）八月七日に、京都一条殿に生まれている。父は一条兼良、母は小林寺殿である。永享十年十二月八日、九歳の時、新門主として大乘院に入室し、同十二年十一月三十日得度、同十二月二十五日に受戒している。康正二年二月十日に興福寺別当となり、翌長祿元年（一四五七）六月二日に大僧正に任ぜられている。尋尊二十八歳の時である。まさに撰関家出身ならではのスピード出世であった。ただし、別当はわずか三年ほどで辞している。以後、異常とも言える情熱で『雑事記』を書きつづけるのであった。

本稿は、『雑事記』に記されたさまざまな記事の中から、茶の湯関係記事を検索し、それをもとに史料年表を作成する事を目的とした。そして、その作成過程において、気づいた点を、覚書的に取り上げる事とした。よって本稿は、あくまで本格的な室町

末期の茶の湯論の基礎的作業であり、本格的な論は今後の課題としたいと考えている。

二、茶進上に関する覚書

全体を通して茶の進上が行われている時期は三時期に限定されてくる。

それはまず、

① 正月の新年を祝う時期である。

次が、

② 八月一日の八朔の祝いの時期。

そして最後が、

③ 十二月末の歳暮の時期である。

多少の例外はあるが、基本的にはこの三つの時期に、他の進物と同様に茶が進上されている。ちなみに、他の進物は主として扇・杉原紙などである。

このことは、茶が、十五世紀後半には、時節の進物品として、一般的な地位を確保していたということとを意味する。

さて、お茶の量であるが、十袋、二十袋が一般的な進上量であった。種類としては、「茶」「新茶」「古茶」という三種類の品質の違いがあった。さらに「吉茶」「上品」という特殊な品質の茶もあった。銘柄としては「宇治茶」が登場している。

そして葉茶以外に、抹茶としての「引茶」「曳茶」が現れる。

文明十六年四月五日条に、「烟茶一斤へ十袋也」とあり、これを一つの基準とすると、茶十袋＝一斤という式が成り立つ。しかし、文明二年四月二十三日条には、「新茶九斤自莞勲方進之、山内茶云々、二十七袋有之」とあり、九斤の新茶が二十七袋になっている。これだと一斤＝三袋という換算率である。

そのほかに、「文明三年慈恩会記」という記録の中には、「八百文茶十斤」と「九十文茶坑△△」という記載がある。これより、ある種類の茶の値段がわかる。つまり、文明三年の慈恩会で使用した茶は、茶一斤＝八十文の茶であった。そしてそのお茶を入れる磁器は一つが四十五文の「茶坑」であった。

茶の値段については、文明七年二月十九日条にも記載がある。そこでは、「茶十斤 二貫文」とある。すると、茶一斤＝二〇〇文となる。これは慈恩会で使った御茶よりはるかに上等の茶ということになる。さらに文明七年六月には「茶日記」なる史料が掲載されている。それには、次のような茶の値段が掲載する。

八〇〇文＝茶十斤	↓茶一斤＝八〇文
三六〇文＝茶四斤半	↓茶一斤＝八〇文
七五〇文＝茶十斤	↓茶一斤＝七五文
三二五文＝茶五斤	↓茶一斤＝六五文

これによると、一般的な茶の値段は、ほぼ茶一斤につき六五文から八〇文の間であったことがわかる。また、「吉茶分七斤」が「五百廿五文」とあり、吉茶一斤＝七五文であったこともわかる。その他、「ソソリ」が二斤で九〇文（一斤＝四五文）、「ヒクツ」が八斤で一六文（一斤＝二・五文）という記録もあり、非常に貴重である。

その上、この「茶日記」には、袋と重さの換算率

を記した数字もある。

△三百五十〇七十文宛分五斤、五十四袋半

とある。これを計算すると、茶一斤七〇文の茶は一〇・九袋分となる。約一一袋である。この換算率は、新茶の場合とほぼ同量である。してみると、一斤二三袋というのは、通常の約三倍の大きさの袋ということになる。

茶を入れる袋の大きさが一様ではないことが理解できるが、「茶日記」に記された袋を一応は、大乘院における標準的の大きさと考える事にしよう。

三、引茶について

『雑事記』に登場する茶には、一般的な茶以外に、「引茶」「曳茶」が登場することはすでに指摘した。「引茶」という用語については、引き出物の茶という理解が林屋辰三郎によって提示され「註2」、その説がこれまで認められてきたが、『雑事記』の記事を見る限りでは、その見解は改められなければならない。

たとえば、大乘院に対して進上された茶は、十袋・二十袋・三十袋と表記されている。つまり、一般に進上物の茶は、「袋」を単位としていたことがわかる。

「茶」が一般に「〇袋」と袋を単位として記されているのに対して、「引茶」・「曳茶」はともに「一器」と器を単位として表記されているからである。そして、「引茶」と「曳茶」は同義であろう。

一方、「茶」が一器の単位を付されることも時々ある。この場合の「茶」表記は「引茶」あるいは「曳茶」の省略形と考えるべきであろう。

なぜなら、逆の場合、つまり「引茶」「曳茶」が「〇袋」という単位で表記される事はないからである。「引茶」「曳茶」の場合は、必ず「〇器」か「〇種」と表記されている。これは挽いた茶を袋に入れることはできなく、器でなければ持参できないからであり、抹茶の種類が異なる場合は「〇種」と表現したのであろう。たとえば三種とある時は、三種類の抹茶を意味して、別々の茶を同一容器に入れるはずは

なく、それは必ず三器をも意味するから、わざわざ三種三器とは記さないで、三種とだけ記載されたものと考えられる。それゆえ、『雑事記』の表記においては、次の規則が成り立つと考える。

茶
└── 葉茶 …………… 単位は「袋」
 └── 引茶・曳茶（挽いた茶）… 単位は「器」「種」

これを、より明確に知らしめてくれるのが、明応七年四月二十四日条の次の記事である。

一、己心寺新茶二十袋進之、又曳茶一器進之、
本ハ茶茶（衍力）十袋進之歟、

ここには「新茶二十袋」と「曳茶一器」が同時に登場し、しかも両者ともが己心寺よりの進物であることが理解される。つまり茶と曳茶は別物であり、茶が引出物の茶である以上、曳茶の「曳」は引出物の意味の「引」ではなく、曳く本来の「挽く」という意味で使用されているとしか考えられない。

では、何で茶を挽いたかという、もちろん茶臼

である。茶臼については、平安時代の『和名抄』に「茶研、茶碾子」とあるので、葉研のごとき類と考えられている。辞典類にも、現在のような石臼形になった時期を明確にしない。しかし『掃墨物語絵巻』には、茶臼の絵が描かれている〔註3〕。『雑事記』でも、「茶臼」が登場する。

長祿二年五月十二日条に、「今度橋本坊ノ茶臼取隠之之由風聞之間」とあり、長谷寺の橋本坊には茶臼があつたことが知られる。

また、明応三年（一四九四）十二月晦日条にも、
一、座敷道具、（中略）茶臼一（元ヨリ在之）、（中略）茶湯棚一間（槻、松林院物也）、

とあり、室礼の一つとして茶臼が登場している。

このような茶臼の存在は、明確に抹茶としての「引茶」「曳茶」の存在を我々に確信させてくれる。また、『雑事記』にみる茶関係史料年表（後掲）を見ると、「引茶」「曳茶」を進上しているのが、浄土寺・己心寺・新浄土寺・新禅院の四所にほぼ限定されており、ことに前二者の浄土寺・己心寺に多く見られ

る進上傾向である事が看取できる。このことより、この二寺にも茶臼が存在した可能性は高い。

寺院が茶畑を経営し、その茶を頒布していた様子は、金沢文庫文書に描かれておりである。金沢貞顕などは称名寺に挽茶を依頼していることから、早くから寺と茶の関係は緊密であつたことが理解される〔註4〕。

四、「茶頭」について

康正三年四月十七日条に、

一、夏中手習茶頭泰経法印勤仕了、
という記事がある。茶頭というと、一般的には貴人に代わつてお茶を立てる人をさすが、ここでは夏の手習の「茶頭」を泰経法印が勤めたとある。「手習」とあることより、この茶頭は、お茶の師匠とは考えにくい。

さらに、文明二年四月十五日条に「茶頭縁舜法眼云々」とある「茶頭」はお茶に関わらない。同日の

前の記事を見るとそれが明確になる。

一、講問一座予行之、

一、舍利講、導師信承公、

一、茶頭縁舜法眼云々、

とある。ここにおいて、この日の茶頭は、舍利講の茶頭であることがわかる。つまり茶頭には、会の進行役という意味合いがあつたことが窺われる。

同じような例は、文明十五年四月八日条にも見られる。

一、茶頭予、連歌初之、

これによると、尋尊は連歌会の茶頭役を勤めたようである。連歌にはあるいは茶の湯も伴ったかもしれないが、この記述からでは、茶頭はあくまで連歌会の「茶頭」と理解するほかない。

文明十六年四月八日条の史料にも、

一、夏中舍利講等初之、茶頭予仰付之、連歌発句予、

とある。ここでは、尋尊が舍利講の茶頭となっており、連歌でも発句を勤めていることが明確にわかる。

やはり茶頭は茶の湯に限定される用語ではないようである。

さて文明十九年四月八日条の記事をみよう。

一、同連歌手習茶頭仰付之、

これを、どのように理解するか。連歌の手習において、尋尊が茶頭役を仰せ付かった、と解するのが穏当であろう。

では、なにゆえ、茶頭が茶の湯の点前役あるいは師匠という意味ではなく、座や会の進行役としての意味を持つようになったのであろうか。

一つには、その前提となる条件を考えなければならぬ。茶の湯において、茶頭は直接的に茶を点てる人を意味する。そして茶を点てる、いわゆる亭主は茶会の進行役でもある。つまり、『雑事記』にみえる「茶頭」の意味は、本来、茶会においてこそ使われるべき用法なのである。それが連歌や手習といった他の場面においても使用されるということは、「茶頭」の進行役」という概念が、広く社会的に定着していることを意味する。そして、そのことはとり

もなおさず、茶会が社会的に普及していることをも意味する。

つまり、茶会が一般化することで、茶会用語であった「茶頭」という言葉が、一般的な進行役という意味の代名詞的存在になったと考えるのである。

このことは、茶会が利休の時代ではなく、すでに珠光の時代に相当普及していたことを、我々に教えてくれる。

先に見た「茶日記」には、棚・金風呂・釜・水指・下水・建蓋・台・茶坑といった、茶道具が列記されている。茶筌・茶杓・柄杓といった消耗品は記されていないものの、後の茶の湯に必要な道具はすべて登場している。

これまでは、「わび」茶の成立と茶の湯の歴史を同レベルで考える傾向が強く、それ以前の喫茶に関しては、闘茶の遊戯性や宴会での付け足しのような存在としてしか評価されて来ていないが、少なくとも寺院社会における喫茶や室礼に関しては、再考する必要があると考える。

つまり、このような喫茶文化が存在していることを前提にして、珠光の茶が生まれてきたのではなからうか。言い換えると、喫茶文化がじゅうぶん社会に浸透した時代に育った珠光だからこそ、彼自身の新たな茶の湯文化を創造することができたのではなからうかということである。

まとめとして

珠光がわび茶の祖といっても、なにもないところに、珠光がまったく独自に茶の湯を作り上げることには困難であつたろう。鎌倉から続く禅宗・律宗を中心とする寺院文化の中で、喫茶文化は育まれていた。金沢文庫や称名寺の周辺で、武家の中にも喫茶文化が展開していたことは、すでに指摘されているとおりである〔註5〕。厳密にいうと、貴族社会においては、平安期から細々とではあるが、儀礼の中に引茶の作法が受け継がれていた〔註6〕。

そうして、室町の将軍家や守護大名家では闘茶や

書院の茶が行われていた。それらの喫茶文化の上に、珠光のわび茶が成り立つのである。

ただし、珠光自身が、みずからの茶の湯を「わび茶」と称したかという点、それは甚だ怪しい。おそらくは「数寄」と称したのであろう。それは、珠光の後継者とみなされる宗珠が「数寄の張本」「数寄の上手」〔註7〕と呼ばれていることから察せられる。

「数奇」とは、本来、茶に限ったことではなかったであろうが、この時代には「数奇」といえば、茶の湯を指すほどに一般化していたのであろう。この珠光から紹鴎を経て、利休で完成されたといわれる「わび茶」は、町人茶を基本としながらも、利休の弟子に大名が多かったことからわかるように、後の大名茶の源流となっている。ようするに江戸期の武家茶も、基本的には利休流の茶が多いということである。

しかし、その一方、「草人木」や「源流茶話」などの江戸期の茶書には、わび茶はわび人、つまり町人で経済的に裕福ではない人の茶として認識されて

いる。いわゆる「わびしい人の茶」がわび茶であった。この概念でゆくと、利休流の茶であっても、武家・大名の茶はわび茶ではなくなる。

この矛盾を解消するために、長年使用されてきた用語ではあるが、「わび茶」を停止して、「数寄(茶)」を提唱したいが、いかがであろうか。

そのような珠光以後の「数寄(茶)」を生み出した時代背景として、『雑事記』に現れた茶史料をさらに検討する必要がある。当時の茶生産地がどこであったか。また大乘院に茶を進上する諸寺院、たとえば浄土寺や己心寺などについても詳しく調べる必要がある。そしてなにより、大乘院との関係の深い奈良の土豪・古市氏の茶の湯についても検討する必要がある。このように残された問題は多い。今後の課題としたいと考える。

〔註〕

- ①『大乘院寺社雑事記』については、主として鈴木良一『大乘院寺社雑事記 ある門閥僧侶の没落の記録』(そして、一九八三年)の研究によった。
- ②林屋辰三郎『図録 茶道史』(淡交社、一九八〇年)。
- ③筒井絃一・他編『茶の湯絵画資料集成』(平凡社、一九九二年)。
- ④テーマ展図録『鎌倉時代の茶』(神奈川県立金沢文庫、一九九八年)、中村修也「人物茶道史6 金沢貞顕」(『孤峰』二二巻九号、二〇〇〇年)。
- ⑤熊原政男『鎌倉の茶』(河原書店、一九四八年)、村井康彦『茶の文化史』(岩波書店、一九七九年)。
- ⑥中村修也「栄西以前の茶」(谷端昭夫編『茶道学大系2 茶道の歴史』所収、淡交社、一九九九年)。
- ⑦鷲尾隆康の日記『二水記』の大永六年八月廿三日条に、「当時数奇宗珠祇候、下京地下入道也、数奇之上手也」とあり、同書天文元年九月六日条にも、「宗珠茶屋…誠可謂市中隠、当時数奇之張本也」と記されている。

『大乗院寺社雜事記』茶關係史料年表

西曆	和曆	記 事
一四五七	康正〇三・〇二・一八	一、新供論事兼日ヨリ以御房中奉行書、納所懷曉得業方へ来十八日可被始行之由仰之、(中略)五卷了テ茶出之、天目御承仕引之、廻請案文記之、付衣・白五帖、
一四五七	康正〇三・〇三・二三	一、己心寺坊主方ヨリ茶以下送給了、
一四五七	康正〇三・〇三・二一	一、極樂坊ノ壇上桜盛之間、為一見行向、坊主尊琳房出合了、茶進之、念仏中也、次安位寺殿ニ參申了、
一四五七	康正〇三・〇四・〇五	一、己心寺ヨリ新(茶脱カ)十袋進上了、恒例ナリ、
一四五七	康正〇三・〇四・一七	一、夏中手習茶頭泰經法印勤仕了、
一四五七	康正〇三・〇四・一八	一、茶頭懷尊僧都、
一四五七	康正〇三・〇四・二〇	一、内山上乗院法印方ヨリ榼二荷・索麵并円頭一籠・古茶十袋給了、先日金剛乘院供補任之礼云々、
一四五七	康正〇三・〇四・二〇	一、茶頭縁舜法眼ナリ、
一四五七	康正〇三・〇四・二一	一、茶頭清賢寺主沙汰了、
一四五七	康正〇三・〇八・〇一	一、出世、々間御懇進上分、(中略)茶廿袋(孝承)、廿袋(専実)、廿袋(繼舜)、十袋(英音房)、
一四五七	康正〇三・〇八・〇三	一、京都懇御返共到来、(中略)扇二本、引合、香、茶、以上家門、
一四五七	康正〇三・〇八・〇六	一、己心寺ヨリ茶并一盆進之、
一四五七	康正〇三・〇九・二五	一、榼等到来、并用意分注文、(中略)松茸一合 内膳進之、茶十袋・松茸 己心寺ヨリ、
一四五七	長祿〇一・〇一・二五	一、松茸一合、一瓶泰經法印進之、賞翫之由仰了、茶并兩種己心寺ヨリ給之、一瓶・一盆鶴進之、
一四五七	長祿〇一・一二・三〇	一、山村来、炭一荷進之、英蓮茶廿(袋)進之、隆舜十袋進之、
一四五七	長祿〇一・一二・三〇	一、長屋納所英蓮茶廿代進之、隆舜法橋十袋進之、別進ナリ、
一四五八	長祿〇二・〇一・〇四	一、子安位寺殿ニ參ス、付衣・綾ケサ・帳興、力者・御童子等直垂、…榼一双・兩種并杉原一束・御茶十袋予持參了、

一四五八	長祿〇二・〇一・〇四	一、茶始如例、
一四五八	長祿〇二・〇一・〇五	(前略)今日風呂始ナリ、…一、十種茶在之、七所勝負、
一四五八	長祿〇二・〇一・〇六	一、頼田ノ室来、筆給之、任英来、香・茶給之、専実(藏人公)、今日始テ出仕了、付衣、英照来了、
一四五八	長祿〇二・〇一・〇七	一、十種茶在之、
一四五八	長祿〇二・〇一・一四	一、安位寺殿渡御、十種茶在之、濟々被持了、
一四五八	長祿〇二・〇一・二四	一、為世間・出世之沙汰十種茶興行、仍安位寺殿御出、於児部屋テ在之、(後略)、
一四五八	長祿〇二・X・〇五	一、釜口ノ使婦参ス、(中略)御使以下ノ沙汰同釜口、二百疋・茶二十袋河原者ニ給之云々、
一四五八	長祿〇二・X・一三	一、山城国菅井庄事、(中略)菅井古河庄近来取納分、御米二十石余(中略)茶三十キン、以上、
一四五八	長祿〇二・〇二・〇三	一、極楽坊ヨリ茶十三袋、新浄土ヨリ十袋進了之、
一四五八	長祿〇二・〇二・一七	一、極楽坊ヨリ茶以下三種進之、悦喜之由仰了、
一四五八	長祿〇二・〇二・二一	一、正法寺ヨリ去□□茶卅袋進之、依所望也、
一四五八	長祿〇二・〇二・二八	一、昨日己心寺ヨリ茶并兩種送給之、賞翫旨仰了、
一四五八	長祿〇二・〇三・〇九	一、小塔院ヨリ茶十五袋進之、悦喜旨返事了、
一四五八	長祿〇二・〇三・一七	一、内山智恵光院ヨリ恒例新茶五袋到来、知院取進上了、
一四五八	長祿〇二・〇三・一九	一、極楽坊ヨリ恒例新茶十袋進之、
一四五八	長祿〇二・〇三・二〇	一、己心寺ヨリ新茶十袋進之、恒例也、
一四五八	長祿〇二・〇三・二二	一、新供衆同音唯識論如例始行之、(中略)講問ノ時可為付衣者也、六巻ノ初茶引之、天目(台在之、茶三袋前日御承仕ニ給之、御承仕引之、茶湯ハ御中ノ湯可用之、手水桶ハ常住ノ桶渡之、(後略)、
一四五八	長祿〇二・〇四・〇八	一、夏中手習始之、人数児・坊・官・侍・中童子、茶道如例也、夏中御手習御茶頭役事、(後略)、
一四五八	長祿〇二・〇四・一一	一、久光上人来、茶十袋持参、対面了、
一四五八	長祿〇二・〇四・一三	一、坪江郷之内後山四分一、洞仙寺方ヨリ注進到来了(中略)然而近年ハ料足九貫・茶・糲二袋、毎年六月中令皆済之由申入之、

一四五八	長祿〇二・〇四・二五	一、夏中手習茶頭一切経納所英算律師一瓶・両種進之、
一四五八	長祿〇二・〇四・二五	一、自賢秀方茶六十余袋取寄了、新茶也、
一四五八	長祿〇二・〇四・二七	一、茶頭勅願納所曳茶一大海并一種進之、
一四五八	長祿〇二・〇五・二二	一、去月比長谷寺ノ橋本坊炎上、手アヤマチ也、(中略)今度橋本坊ノ茶曰取隠之之由風聞之間、(中略)不及検断者也、
一四五八	長祿〇二・〇六・一〇	一、越前国洞仙寺沙汰ノ年貢、茶廿袋・糴二袋(各長器七升五合云々)、今日到来了、
一四五八	長祿〇二・〇八・〇一	刑部卿扇一本・引合十帖給之、茶十袋・引合遣之了、(中略)己心寺茶三十袋進之、英音十袋進之、
一四五八	長祿〇二・〇八・一八	一、十種茶御興行、
一四五八	長祿〇二・〇九・一〇	一、隆舜方ヨリ御憑方色々注進之、(中略)孝承 茶廿袋、専実 同、継舜 同、(後略)、
一四五八	長祿〇二・〇九・一一	一、内山上乗院ヨリ茶二十袋進之、悦喜旨仰遣了、
一四五八	長祿〇二・一一・二三	一、屏風二双(中略)御座一帖・茶湯具足炭・燈台・油・疊以下同東室三渡之了、これハ会式料理之外分ナリ、(後略)、
一四五八	長祿〇二・一二・二二	一、己心寺坊主良均、宇治茶十袋持参、恐悦之由仰了、
一四五八	長祿〇二・一二・三〇	一、茶廿袋春覚房進之、十袋因幡法橋持参之、
一四五九	長祿〇三・〇一・〇四	一、予安位寺殿ニ参了(中略)、予杉原 束・茶十袋・唐布一合・串柿一連・榎 荷進之了、一献在之、
一四五九	長祿〇三・〇一・〇四	一、十種茶在之、懸物如形予出之了、
一四五九	長祿〇三・〇一・〇九	一、榎一双・両種大閑二進之、御茶十袋閑白殿二進之了、
一四五九	長祿〇三・〇一・一九	一、茶井二盆自己心寺送給了、承悦旨仰遣了、
一四五九	長祿〇三・〇二・二八	一、元興寺郷之内無縁堂郷ノ於茶屋了、木寺之住人ト芝屋ノ住人も喧嘩事在之之由、郷人等注進、仍以力耜并定使彼茶屋ヲ檢封了、
一四五九	長祿〇三・〇三・〇五	一、自己心寺茶進之、

一四五九	長祿〇三・〇三・〇九	一、極樂坊・尊琳房来、茶二十袋持参、大安寺之倉坊々主事、為惣寺被申付、自然事可有合力之由云々、
一四五九	長祿〇三・〇三・二六	一、知惠光院新茶五袋進之、
一四五九	長祿〇三・〇三・二七	一、己心寺新茶十袋進之、
一四五九	長祿〇三・〇三・二九	一、新茶十袋自極樂坊進之、
一四五九	長祿〇三・〇三・三〇	一、栖一折・茶十袋、自上乘院法印方送給之了、
一四五九	長祿〇三・〇四・二〇	一、元興寺郷辰已辻郷人申入云、(中略)此上者茶屋ニ可有寄宿之過之間、茶屋エ力者兩人入之、寄宿之過之間、不及檢封、以酒肴令落居云々、
一四五九	長祿〇三・〇五・一四	一、市本正法寺ヨリ新茶二十袋到来、成就院取進之、
一四五九	長祿〇三・〇五・二八	一、新供衆ノ同音論於九間修之、二十人皆参、各村衣・白五帖、御承仕小衣、此論去二月分ナリ、依宗融事干今延引了、茶出之、御承仕引之テタテ、出也
一四五九	長祿〇三・〇五・二八	一、当門跡茶座公事并糟座公事、自昔代候人等ノ為給分之處、於向後者惣而奈良中ノフリ荷ニハ諸公事不可有之由、六方任雅意令下知、剩カケフタニ引付之云々、(中略)テヤ、(後略)、
一四五九	長祿〇三・〇六・一七	一、香舜来、昨日六方衆会色々及沙汰、順享大般若事申送于学侶、并大鳥居打事、次就茶座・檜物座公事、先日及進発、此事六方越度ナリ、中市ノ売買ニ令混乱之間、及其沙汰了、就名主之儀、更以不可及沙汰事也、向後可得其意事タル之由及集会、満参之集会也云々、
一四五九	長祿〇三・〇八・〇一	一、(前略) 茶廿袋室生寺長老、廿袋専実、十袋孝承寺、廿袋雜舞上座(中略)古市進上之、恒例者也、(中略) 茶十袋英音房、(中略)、茶十袋己心寺、(後略)、
一四五九	長祿〇三・〇八・二七	一、大安寺長老(榮林房) 光臨、対面了、杉原一東・茶三十袋被持参、此十日計以前二被当住云々、
一四六〇	長祿〇四・〇一・〇四	一、予如例年令参賀(古市) 安位寺殿了、(中略)、茶以下如去年進之了、
一四六〇	長祿〇四・〇一・〇四	一、梅林来、茶一種持参、給酒并壇紙一束了、
一四六〇	長祿〇四・〇一・〇四	一、茶始如例、懸物壇紙一束・扇一本・火箸一前、一献如例者也、
一四六〇	長祿〇四・〇二・一〇	一、己心寺坊主来、茶十袋持参、次大安寺向与新浄土寺令相論田地(芝内)事、向方ノ証文持参、令一見、(後略)、
一四六〇	長祿〇四・〇二・二二	一、東大寺二月堂ニ令参籠、(中略)疊以下茶湯等澄春用意之、澄春付衣・白衣ニテ参御礼、念比沙汰為悦旨仰了、

一四六〇	長緑〇四・〇三・〇三	一、昨日自己心寺茶十袋進之、
一四六〇	長緑〇四・〇三・二二	一、新供論始行之、二十口之内不参云々、至第五卷テ茶引之、御承仕役、今日小衣也、(後略)、
一四六〇	長緑〇四・〇四・〇八	一、夏中手習始之、茶頭予沙汰之了、夏中御手習御茶頭役事、(後略)、
一四六〇	長緑〇四・〇四・一一	一、自上乘院法印方新茶十袋進之、
一四六〇	長緑〇四・〇四・一三	一、昨日己心寺来、新茶持参、対面了、就中新浄土寺与大安寺向相論田地事、巨細仰合之了、
一四六〇	長緑〇四・〇四・一三	一、内山智恵光院ヨリ恒例新茶五袋進之、
一四六〇	長緑〇四・〇四・一六	一、極楽坊新茶十袋如恒例進之、次良莠来、両条事仰付之了、
一四六〇	長緑〇四・〇四・二六	一、今日茶頭勅願納所役、一種并茶進之、昨日者一切経納所役、一瓶・一盆進之了、
一四六〇	長緑〇四・〇五・〇三	一、新浄土坊主来、茶二十袋・杉原一束進之了、
一四六〇	長緑〇四・〇六・二二	一、就狭竹庄田事刑部昨日茶三十袋進上之了、継舞奉行之、
一四六〇	長緑〇四・〇八・〇一	一、今日進物、(中略)茶廿袋 室生寺長老法海、茶廿袋 孝承、茶廿袋 専実、茶廿袋 継舞、茶十袋 英音、茶十袋 己心寺 (後略)、
一四六〇	長緑〇四・〇八・〇一	一、白布一反・蘿箱一・花瓶一、茶十袋・杉原一束進安位寺殿了、
一四六〇	長緑〇四・X九・〇七	一、就三唐臼俱舍米事、為礼宗乘来、茶湯釜一進之、
一四六〇	長緑〇四・X九・〇八	一、浄土寺坊主来、茶三十袋進之、地下風呂自今日如(始力)之云々、珍重之由仰之了、
一四六〇	長緑〇四・一一・二二	一、自浄土寺索麵一盆・引茶大菓器并卷数一枝、為頭役方進之、
一四六〇	長緑〇四・一一・二三	一、茶廿袋良莠房進之(極楽坊住僧)、
一四六〇	長緑〇四・一一・二五	一、料理事隆舜法眼奉行、(中略)同南三間大安寺・己心寺等律宗為見物在所量用之、庇北二茶湯立之、為惣也、
一四六〇	長緑〇四・一一・二五	一、御前之東九間京都御僧以下客人見物在所、中童子春福・松千代同候了、御前用茶湯同九間二用意了、
一四六〇	長緑〇四・一一・二五	一、北面方色々行事兼日二仰付之、沙汰人相触了、(中略)一、九間御茶湯事(吉阿)、一、庇御茶湯事(伊予守)、

一四六〇	長祿〇四・一二・二五	一、炭事（寛田）、一、屏風事（寛田）、一、御茶事（長松）、（後略）、
一四六〇	寛正〇一・一二・三〇	一、茶廿袋長屋納所英邇進之、十袋隆舜法眼進之、
一四六一	寛正〇二・〇一・〇四	一、茶始在之、見物予出之、
一四六一	寛正〇二・〇一・〇六	一、杉原一束・扇一本・茶釜一、以玄深寺主進上安位寺殿了、
一四六一	寛正〇二・〇一・一六	一、星供英音房懃之、扇一本給之、弟子荣恩扇一本給之、茶持参之、
一四六一	寛正〇二・〇二・二九	一、新供論在之、廿口之内俊芸法師不参云々、各付衣・白五帖ケサ、御承仕小衣、五巻以後茶引之、仏供上番、燈明小童方より渡承仕、
一四六一	寛正〇二・〇三・一一	一、室生寺長老法海上人來、对面、種々物語移寺（時力）剋、茶十袋被献之、為悦旨仰了、
一四六一	寛正〇二・〇三・一二	一、内山智恵光院新茶五袋進之、如例年也、
一四六一	寛正〇二・〇三・一五	一、茶十袋自極樂坊進之、例年沙汰也、
一四六一	寛正〇二・〇三・一八	一、新茶十袋自己心寺進之、如例年也、
一四六一	寛正〇二・〇三・二二（追筆）	一、新茶十袋上乘院法印進之了、
一四六一	寛正〇二・〇四・〇四	一、大野慈尊院長老來、茶三十袋進之、大納言禪師ニ廿袋献之、不寄存旨悦仰了、
一四六一	寛正〇二・〇四・〇五	一、法海長老茶百袋以尊藤送給了、大納言ニ卅袋、不動寺・宗量各十袋、旁之儀迷惑者也、喜悅之旨則以対面仰之、
一四六一	寛正〇二・〇四・〇九	一、不動寺殿上落、榎一荷予進之上了、直指院方榎一荷・紙二十束・茶三十袋進之了、今度下向御礼ナリ、
一四六一	寛正〇二・〇五・一六	一、手習茶頭一切經納所沙汰之、一瓶・一種等進之了、
一四六一	寛正〇二・〇五・一七	一、夏中手習、頭勅願納所沙汰之、一盆・茶一筒進之、
一四六一	寛正〇二・〇五・一八	一、夏中連歌、頭慶英、又茶十袋進之、
一四六一	寛正〇二・〇五・二二	一、市本正法寺ヨリ新茶二十袋進之、如例年名主清賢取進了、
一四六一	寛正〇二・〇六・〇五	一、戊剋移社頭船戸館、明日為参詣也、（中略）自余晝皆以御師沙汰也、茶湯同、御共大衆大納言、（後略）、

一四六一	寛正〇二・〇八・〇一	一、蘿箱一・白布一・茶廿袋・杉原一東安位寺殿二進之了、仲秋月朔之御慶、毎度可被任御意之条、目出畏入存候、抑雖さ道候、蘿箱一・白布一・茶廿袋・杉原令進上候、表其儀計之由、可然可令申入給候也、八月一日尋尊上、
一四六一	寛正〇二・〇八・〇一	一、今日各進物、(中略)茶廿袋 孝承、廿袋 専実、廿袋 継舜、廿袋 室生長老、十袋 英音房、十袋 己心寺、
一四六一	寛正〇二・〇八・〇三	一、家門御返到来、茶境・染付瓶子一・引合、
一四六一	寛正〇二・〇八・一八	一、大館兵庫方憑返、茶廿袋・引合遣之了、
一四六一	寛正〇二・〇八・二七	一、大安寺長老尊琳房来、対面、茶二十袋持参、寺務へ同進之、彼寺事当門跡寄所故也、仍自然題目不能見所者也、
一四六一	寛正〇二・〇九・〇二	一、近習者共以清賢法橋訴申入云、近日北面共以候人茶境任雅意吞茶条敷入候、可被停止之由申入之、(中略)、仍或北面之茶碗用之、或又候人茶境吞之、然上者可謂非衆分敷、サル前ハ非可及子細事者也、(後略)、
一四六一	寛正〇二・〇九・〇四	一、近習者共訴申趣如一昨日、同返事趣同篇ナリ、但寛角之子細無益也、近習者共之茶境并北面茶境一向可停止也、於中屋自他可吞茶事、向後堅可令略之之由、仰付清賢法橋了、然上者対馬之沙汰不可及是非事也、
一四六一	寛正〇二・〇九・一一	一、東北院僧正(小衣)来、対面、(中略)、茶二盆自己心寺送給之、(後略)、
一四六一	寛正〇二・〇九・一四	一、自東北院折一合・茶二種以待法師送給之、恐悦之由巨細仰了、折則給大納言禪師、畏入云々、
一四六一	寛正〇二・〇九・一七	(前略) 以上社頭但馬屋指図、(中略)茶湯ハ北面参庵分沙汰之、公私用之、
一四六一	寛正〇二・一〇・〇三	一、国見獄工登了、(中略)於白毫寺寂静院茶所望之了、次以彼寺舍利殿并十王召寄之一見了、
一四六一	寛正〇二・一一・二三	一、英蓮茶二十袋進之、隆舜十袋進之、
一四六一	寛正〇三・一〇・一四	一、茶始在之、一献如常、口物綿三・円鏡一・紙一束・扇一本出之了、(後略)、
一四六一	寛正〇三・一〇・一五	一、風呂在之、倉庄役、代五十疋云々約以下色々物御後見調進之云々、湯行事舜信法師、湯帷一・カミソリ布一同後見進之、寺務同進之、
一四六一	寛正〇三・一〇・一五	一、十種茶在之、寺務御沙汰也、

一四六二	寛正〇三・〇一・〇六	一、十種茶候人興行了、
一四六二	寛正〇三・〇一・〇九	一、榼一双・串柿・蜜柑進家門了、茶十袋進関白了、
一四六二	寛正〇三・〇一・一〇	一、杉原一束・扇一本・茶十袋以尊藤進安位寺殿了、
一四六二	寛正〇三・〇二・〇二	一、年始杉原・扇注文召仕分、(中略)、一束茶始、(中略)扇十本(中略)、一本茶初、(後略)、
一四六二	寛正〇三・〇四・〇五	一、内山智恵光院新茶五袋進之、
一四六二	寛正〇三・〇四・〇七	一、新茶十袋自極楽坊進之、五袋自大安寺進之、当年始也、不寄思者也、
一四六二	寛正〇三・〇四・〇九	一、今日手習茶頭御後見沙汰ナリ、
一四六二	寛正〇三・〇八・〇一	一、蘿箱一・杉原一束・白布一端・茶十袋安位寺殿二進之了、
一四六二	寛正〇三・〇八・〇一	一、今日所進事、(中略)茶二十袋 繼舞上座、(後略)、
一四六二	寛正〇三・一一・一一	一、東室料理方色々、(中略)茶湯具色々皆具、其外色々予渡了、為料理繼舞上座并北面少々渡了、
一四六二	寛正〇三・一二・〇五	一、己心寺坊主来、茶十袋持参了、宗秀五師為礼来了、
一四六二	寛正〇三・一二・一二	一、浄土寺坊主来、文殊一フク(珍海筆)・茶二十袋持参了、入室礼云々、
一四六二	寛正〇三・一二・一五	一、大安寺長老茶三十袋持来、対面了、
一四六二	寛正〇三・一二・一五	一、小塔院茶十袋・一盆進之、
一四六二	寛正〇三・一二・三〇	一、学順炭一荷進之、香舜一双・一盆進之、春覚茶二十袋進、隆舜法眼十袋進之、延恩五師一面進之、
一四六三	寛正〇四・〇一・〇四	一、茶始在之、厚紙一束・同壇紙一束・扇一本出之了、
一四六三	寛正〇四・〇一・〇五	一、風呂始、倉庄役、行事舜信雜具共御後見沙汰也、御湯帷・御髪剃布并寺務分進之、(後略)、
一四六三	寛正〇四・〇一・〇五	一、茶在之、寺務御沙汰也、
一四六三	寛正〇四・〇一・一〇	一、為年始御礼一乗院上洛云々、予今日令上洛、(中略)御方茶十袋進之、東御方百足進之、(後略)、

一四六三	寛正〇四・〇三・〇六	一、新供衆同音論在之、御承仕兩人、小衣也、茶引之了、
一四六三	寛正〇四・一一・〇四	一、茶十袋自新浄土寺進之、
一四六三	寛正〇四・一一・二〇	一、新禪院当住為礼来、対面、茶三十袋進之、松林院侍法師出雲之弟云々、
一四六三	寛正〇四・一二・二七	一、浄土寺より茶十五袋進之、
一四六三	寛正〇四・一二・三〇	一、茶十袋隆舜法眼進之、
一四六四	寛正〇五・〇四・〇六	一、茶湯道具可用意之、
一四六四	寛正〇五・〇七・三〇	(前略) 安位寺殿 蘿箱一 御茶二十袋 花瓶一 以上、各書狀進之、仰付袖留木法桶了、
一四六四	寛正〇五・〇八・〇一	一、今日進物、(中略) 茶二十袋孝承寺主 茶二十袋専実法眼、茶三十袋繼舜上座、茶十袋己心寺、…茶十袋英音房、
一四六四	寛正〇五・〇九・〇七	一、新浄土寺ヨリ茶并両種進之、
一四六四	寛正〇五・一二・二九	一、一面・一種(光守)、一面・一種(宗秀)、炭一荷(友清)、炭一荷(山村)、茶廿袋(浄土寺)、
一四六四	寛正〇五・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、
一四六五	寛正〇六・〇一・〇四	一、茶始在之、見物杉原一束・扇一本・火箸一前、安位寺殿渡御、絵二幅(山水、被下之、
一四六五	寛正〇六・〇一・〇七	一、自浄土寺曳茶三種進之、仍壇紙一束遣之、
一四六五	寛正〇六・〇三・二七	一、茶十袋自己心寺進之、同新茶十袋先日自極樂坊進之了、
一四六五	寛正〇六・〇三・二八	一、新茶五袋自智恵光院進之、
一四六五	寛正〇六・〇四・〇七	一、小塔院より新茶十袋・筭進之、不思召寄旨仰了、
一四六五	寛正〇六・〇四・二二	一、茶頭一切経納所沙汰、
一四六五	寛正〇六・〇八・〇一	一、今日進物、(中略) 茶二十袋 専実、同二十袋 繼舜上座、同二十袋 孝承、同十袋 英音房、同十袋 己心寺、
一四六五	寛正〇六・〇八・〇九	一、極樂坊より茶三十袋進之、

一四六五	寛正〇六・一二・二四	一、大安寺当住禪藏房光臨、茶五十袋進之、対面、己心寺・浄土寺坊主為札来、対面、
一四六五	寛正〇六・一二・三〇	一、茶三十袋英通得業、二十袋駐舜進之、
一四六六	寛正〇七・〇一・〇七	一、自浄土寺茶三種送給之、壇紙一束遣之、
一四六六	寛正〇七・〇一・〇八	一、当年星供栄恩代僧来、引茶持参之間、扇一本給之、
一四六六	寛正〇七・〇一・一一	一、早且室町殿参申、(中略)円鏡 一面 茶十袋 前殿、以上京上、(後略)、
一四六六	文正〇一・〇三・一五	一、内山知恵光院茶五袋進之、先日進之了、
一四六六	文正〇一・〇三・一六	一、茶六斤自堯敷方進之、
一四六六	文正〇一・〇三・一九	一、新茶二十袋極樂坊より進之、
一四六六	文正〇一・〇三・一九	一、茶十斤自堯敷方召之、
一四六六	文正〇一・〇三・二〇	一、風呂在之、一、己心寺新茶十袋進之、
一四六六	文正〇一・〇三・二二	一、古茶十袋貞專進之、
一四六六	文正〇一・〇五・一四	一、正法寺新茶二十袋進之、
一四六六	文正〇一・〇七・二一	一、茶三十袋良堯房持参、今度極樂坊地与西寺林番匠地、サイ目相論事在之、如本帳成敗故也、
一四六六	文正〇一・〇八・〇一	一、白布一反・茶十袋・蘿一安位寺殿ニ進之、
一四六六	文正〇一・〇八・〇一	一、御憑所々進之、(中略)茶十袋 己心寺、茶廿袋 継舜、茶廿袋 孝承、茶廿袋 専実、(後略)、
一四六六	文正〇一・〇七・〇二	一、家門御憑上之、人夫若槻庄一人、正陣上之、(中略)茶五十袋、
一四六六	文正〇一・〇八・一〇	一、己心寺より茶并三種送給之、
一四六六	文正〇一・一二・〇六	一、昌懷茶之子一折進之、
一四六六	文正〇一・一二・二七	一、茶二十袋新浄土寺進之、
一四六六	文正〇一・一二・三〇	一、長屋庄納所茶二十袋進之、

一四六六	文正〇一・一二・三〇	一、駐舜茶十袋進之、
一四六七	文正〇二・〇一・〇二	一、御作手塗師与四郎・大工左近五郎来、酒給之、茶并筆風情物少々給之、畏入了、
一四六七	文正〇二・〇一・〇八	一、新浄土寺曳茶三種進之、仍半疊二帖返報之、
一四六七	応仁〇一・〇三・三二	一、極楽坊々主事、自己心寺申付之間、可住持之由良夷房来口対面、珍重之由申仰了、茶三十袋・高来布一段持来、
一四六七	応仁〇一・〇三・三三	一、内山智恵光院茶五袋到来、此外名主方三袋云々、
一四六七	応仁〇一・〇四・〇九	一、茶頭清賢法橋、
一四六七	応仁〇一・〇四・三二	一、茶頭一切經納所英算、
一四六七	応仁〇一・〇六・〇九	一、一昨日市本正法寺例進新茶二十袋到来、清賢法橋取繼之、
一四六八	応仁〇二・X〇・一八	一、新浄土寺二參詣了、(中略)長老御対面、御寮見參、御茶給之、則退出、清賢法橋・泰弘參向、(後略)、
一四六八	応仁〇二・一一・一五	一、新浄土寺二參詣了、(中略)長老御対面、御寮見參、御茶給之、則退出、清賢法橋・泰弘參向、
一四六八	応仁〇二・一二・一三	一、茶湯具悉皆坊主二借用、但灰ハ此方より召之、渡者共其夜二悉以返渡禪定院了、
一四六九	文明〇一・〇八・〇一	(前略)孝承茶二十袋、専実同、繼舜同、泰弘十袋、
一四六九	文明〇一・〇八・〇一	一、安位寺殿白布一反ツ、ラ・茶十袋進之、
一四六九	文明〇一・一二・二八	一、浄土寺坊主来、茶廿袋持參、
一四六九	文明〇一・一二・二八	一、長屋庄納所英暹得業茶廿袋進之、
一四七〇	文明〇二・〇一・〇七	一、於成就院御茶在之、予參了、
一四七〇	文明〇二・〇一・〇八	一、茶在之、
一四七〇	文明〇二・〇一・一〇	一、於成就院御茶在之、
一四七〇	文明〇二・〇一・二〇	略、 一、己心寺二行向、茶境物一・杉原十帖遣坊主了、色々活計、大湯屋二入了、寺務渡御、随心院殿同御入了、(後略)、

一四七〇	文明〇二・〇二・〇一	一、自鷹司殿御使式部少輔來 杉原十帖・茶境鉢一被送下之、過分至畏入旨令申了、(後略)、
一四七〇	文明〇二・〇二・〇一	一、引茶大薬器一(己心寺)、大海一(五智光院)、薬器二(浄土寺)、薬器(極楽坊)、
一四七〇	文明〇二・〇二・〇一	一、九間(御前)、御茶湯ハ、公方并良家殿上人分計用意之、木阿ミニ仰付之、北面六間御茶湯女中御所々々并 法花寺殿、又候人以下養專長ニ仰付之、
一四七〇	文明〇二・〇二・三〇	一、一献以下色々雜掌所事、寛田・明恩・宗順以下京衆・奈良衆折合テ致沙汰了、色々道具召進之、茶湯奉行 木阿ミ、
一四七〇	文明〇二・〇四・二二	一、新茶二十袋己心寺より進之、近來八十袋献之、只今二十袋如何、
一四七〇	文明〇二・〇四・一五	一、茶頭縁舞法眼云々、
一四七〇	文明〇二・〇四・一八	一、新茶十袋新禪院より進之、
一四七〇	文明〇二・〇四・一九	一、風呂在之、草川庄役、殿下入御、一、茶頭一切経納所進之、
一四七〇	文明〇二・〇四・二三	一、新茶九斤自莚敷方進之、山内茶云々、二十七袋有之、
一四七〇	文明〇二・〇五・二二	一、櫟本正法寺新茶二十袋進之、
一四七〇	文明〇二・〇六・一八	一、自極楽坊茶并一盆献之、
一四七〇	文明〇二・〇八・〇一	(前略)泰弘 茶十袋、孝承 茶二十袋、専実 茶二十袋、宣舜 茶十五袋、繼舜法橋 茶二十袋、己心寺 茶 十袋、
一四七〇	文明〇二・〇八・〇一	一、安位寺殿蘿箱(一)・白布(一)反・茶(十袋)、進之、
一四七〇	文明〇二・〇八・三〇	一、大安寺新長老光臨、対面了、己心寺門徒良算房(号阿ミタ院)茶二十袋・雑紙十束被持來了、迷惑物也、
一四七〇	文明〇二・一二・三〇	一、光林院茶二十袋進之、
一四七〇	文明〇二・一二・三〇	一、肆舜茶十袋進之、
一四七一	文明〇三・〇一・〇七	一、成就院ニ参申、御茶在之、

一四七二	文明〇三・〇一・一六	一、予参成就院、御茶在之、法花寺御方入御、
一四七二	文明〇三・〇三・一五	一、明日於浄土寺太閣御茶見、御連歌一座可有之、(中略)、茶子色々へ大納言、
一四七二	文明〇三・〇三・一七	一、浄土寺坊主為御礼御茶以下種々持参、御对面、予申次之、畏入云々、
一四七二	文明〇三・〇八・〇一	一、壇紙一束・茶十袋・ツ、ラ一進安位寺殿、御返花瓶一・蘿一被下之了、
一四七二	文明〇三・〇八・〇一	(前略)孝承・専実各茶二十袋、継舜法橋茶二十袋、宣舜同十五袋、泰弘古茶十袋、己心寺茶廿袋、成就院中納言僧都茶一囊、返花瓶一遣之、龍光院折一合、返茶十袋、
一四七二	文明〇三・〇八・〇四	一、一乗院御使二西殿入来、先日力者事也、又式部少輔来、色々物語、昨日一乗院之茶頭東北院云々、
一四七二	文明〇三・X八・二七	一、一乗院茶事門主頭云々、大閣并随心院殿渡御、
一四七二	文明〇三・〇九・〇七	一、浄土寺坊主茶持参之、
一四七二	文明〇三・一二・三〇	一、俳舜茶十袋進之、昨日英還得業廿袋進之、
一四七一	文明〇三・慈恩会	一、正燈事常住之外、中屋・茶所・庇・供御所・上番・北面・公所・侍・御堂、三个夜分一升五合下行、八百文茶十斤、九十文茶境へ二、
一四七二	文明〇四・〇一・一四	一、成就院ニ参申、御茶在之、
一四七二	文明〇四・〇一・二四	一、十輪院・福智院参詣之次、成就院ニ参申、十種茶在之、
一四七二	文明〇四・〇二・〇四	一、信承(中略)毎年自此方茶十袋進之、其返報シホヒキ二尺一貫文必々到来處、去年分未到来也、
一四七二	文明〇四・〇二・〇八	一、二月堂参籠、大納言僧都・上座法橋父子・順円・堯順、南正面東南院殿ニ兼日より申請了、茶湯等事樋坊ニ仰付之了、
一四七二	文明〇四・〇三・二四	一、内山智恵光院新茶五袋進之、知院分三袋在之云々、己心寺新茶十袋進之并古茶五袋進之、
一四七二	文明〇四・〇四・〇八	一、手習始之、出世・々間・中童子今日茶頭仰せ付之了、
一四七二	文明〇四・〇六・〇一	一、伊勢国司使へ諸大夫へ上洛、大納言僧都方ニ茶百袋并三百疋被送之、使見参、太刀一振遣之云々、

一四七二	文明〇四・〇六・一二	一、正月十五日中吉御茶十袋進之、
一四七二	文明〇四・〇六・一二	一、夏中御手習頭式、茶一種・昆布三卷、
一四七二	文明〇四・〇八・〇一	一、方々進物事(中略)茶二十袋(清賢法橋)、茶十袋(泰弘)、十袋(己心寺)、廿袋(繼舜)、十五袋(宣舜)、二十袋(專実)、
一四七二	文明〇四・〇八・〇一	一、白布一反・杉原十帖・茶十袋(寺務進之)、
一四七二	文明〇四・〇八・〇三	一、自安位寺殿返し白布・雜紙二束・茶坑一到來、
一四七二	文明〇四・一二・二六	一、浄土寺坊主茶廿袋持參、正豊寺卷数炭一荷、樂樂寺卷数、報恩院法印・吉田、
一四七二	文明〇四・一二・三〇	一、経師経進之、驛舜寺主茶十袋進之、
一四七三	文明〇五・〇一・〇一	一、松林院権僧正十袋献之、書状在之、
一四七三	文明〇五・〇一・〇二	一、松林院茶返事今日遣之、
一四七三	文明〇五・〇一・〇六	一、於大納言僧都部屋茶在之、
一四七三	文明〇五・〇一・〇八	一、浄土寺坊主引茶送給之、半帖二返報了、
一四七三	文明〇五・〇一・〇九	一、一切経新納所寛尊僧都瓶子一双・盆一進之、為納所役代々茶十袋進之處、自前納所時如此瓶子進之令略茶了、
一四七三	文明〇五・〇一・一一	一、自己心寺茶一器進之、
一四七三	文明〇五・〇六・一九	一、坪江立田乙部事、松林院定使ニ如此間仰了、昨日奉書并茶十袋給之了、此間信承御給分也、召上之了、坪江立田乙部御年貢事(中略)就中雖比興候、御茶十袋被遣候之由被仰出候也、恐々謹言、
一四七三	文明〇五・〇七・〇三	一、古茶十袋自己心寺以待者進之、
一四七三	文明〇五・〇八・〇一	一、進物(中略)茶二十袋(專実)、二十袋(繼舜)、十五袋(寛舜)、十袋(泰弘)、十袋(己心寺)、(後略)、
一四七三	文明〇五・〇八・〇二	一、榎一荷・麵一折・進根三本遣浄土寺了、可給安者等之由仰了、則坊主被來、各悦入云々、茶持參之、
一四七三	文明〇五・〇八・〇三	一、茶二十袋遣訓英方了、

一四七五	文明〇七・〇六・二六	一、正法寺新茶二十袋到来了、
一四七五	文明〇七・〇三・二八	一、自己心寺殿新茶二十袋進之、
一四七五	文明〇七・〇二・二九	一、極樂坊十三部經事相尋注進之、(中略)、茶十斤 二貫文、
一四七五	文明〇七・〇一・一一	一、己心寺侍者僧參申云々、茶一器進之、
一四七五	文明〇七・〇一・一〇	一、於慶藤部屋茶在之、今夜庚申也、
一四七五	文明〇七・〇一・〇八	一、自淨土寺茶三種送給之、壇紙一束遣之、両物返報、
一四七五	文明〇七・〇一・〇四	一、茶始如例、
一四七四	文明〇六・一一・一三	一、極樂坊来、二盆・茶進之、
一四七四	文明〇六・一〇・〇二	一、正燈番宗禅法師去月分御油之内三升下行、御両所・茶所・僧都、残分廿四燈云々、
一四七四	文明〇六・〇九・〇二	一、成就院二參申、但禅閣一乘院へ渡御、今夜可有御茶云々、仍御供衆罷帰了、明日早旦可成還御、
一四七四	文明〇六・〇八・三〇	一、一乘院茶事在之、禅閣渡御、
一四七四	文明〇六・〇八・〇二	(前略)茶三十袋遣訓英、
一四七四	文明〇六・〇八・〇一	略、 一、所進物事、(中略)茶廿袋繼舞法橋、十五袋泰弘、十五袋宣舜、廿袋専実、十袋己心寺、雨物河原次郎、(後略)、
一四七四	文明〇六・〇四・一一	一、内山智恵光院新茶五袋到来、
一四七四	文明〇六・〇一・〇四	一、茶在之、人数廿人計、門跡衆・家門衆見物、三種出之、
一四七四	文明〇六・〇一・〇一	一、自松林院僧正方茶十袋送給之、元五日進之、(後略)、
一四七三	文明〇五・一二・三〇	一、駐舞寺主茶十袋進之、
一四七三	文明〇五・一二・二七	一、茶二十袋淨土寺坊主持来、新禅院炭一荷、
一四七三	文明〇五・一二・〇八	一、自己心寺一盆并茶等送給、
一四七三	文明〇五・一二・二〇	一、茶湯具・火鉢・スミ・御簾事、木阿・丞阿、

一四七五	文明〇七・〇六・三〇	一、風呂在之、湯行事役、禪閣入御、今日又御記私虫了、一乗院へ入御、修南院茶頭申沙汰云々、
一四七五	文明〇七・〇六・檢断	元興寺郷内無縁堂於茶屋テ、木寺之住人卜芝屋住人喧嘩事在之之由、郷民等注進申、仍以力者并定使、彼茶屋ヲ檢断寄宿罪也、惣郷ハ注進之間不及使者也、仍公給事も如形云々、衆中并別当東室之使雖來、門跡使先立問各退了
一四七五	文明〇七・〇六・〇〇	茶日記へ去年文明六年ハ、八百文十斤、八十宛、三百六十四文四斤半、八十ツ、七百五十文十斤、七十五文宛、合二十四斤半、代二貫百廿文へ三百五十ツ七十文宛分五斤、五十四袋半四月七日、六十五文宛、五斤へ同ミタレ、部屋兼合十斤六百七十五文、 善珠 二斤へ百卅ツ、一斤へ百、ヘソ、リ二斤、 行賀 へ九十、四十ツ、分、合四百五十三文 信叡 へ高座 ヒクツ六斤へ八十二文、ヨコ、同八斤、 常勝 へ高座へ仏 へ百十六文、ヨコ、吉茶分七斤へ五百廿五文、自共勸申へ 基操 玄巖(持香呂) 志摩 駿河 相模 常陸 美濃 飛騨 陸奥 伯耆 美作 安芸 周防 伊予 文明二(寅)廿四貫文 文明五(巳)廿三貫余 (後略)、
一四七五	文明〇七・〇七・〇七	(前略)御茶具足方(御前分、此外次分在之、 棚一脚(松林院)、金風呂・同釜成就院 水指(大納言僧都)、下水へ左近四郎、建蓋二・台二(浄土寺)、建蓋一・台一(成就院、建蓋一・台一(極樂坊、建蓋一・台一(在之、以上(中略) 茶境二十(辻坊、茶境 茶境 (後略)、
一四七五	文明〇七・〇八・〇一	一、所々進上物事、茶二十袋上座法橋、同十五袋宣舜、茶二十袋専実、同十五袋泰弘、茶十袋己心寺、(後略、
一四七五	文明〇七・〇八・〇二	一、茶三十袋遣訓英方了、
一四七五	文明〇七・〇八・〇三	一、一乗院茶事今日門主沙汰、禪閣渡御、
一四七五	文明〇七・〇一・〇七	一、新禪院坊主百足茶持參、見參了、
一四七五	文明〇七・一二・二七	一、昨日浄土寺坊主茶二十袋并引茶・兩種持參、恒例卷数又到來、己心寺代官引茶持參、恒例卷数・炭同到來、

一四七五	文明〇七・一二・三〇	一、英暹律師茶廿袋進之、
一四七五	文明〇七・一二・三〇	一、驛舜寺主茶十袋進之、
一四七五	文明〇七・維摩會	△六合茶所業・京都衆以下二石二斗二十人分、
一四七五	文明〇七・維摩會	一、茶湯兩所事 堯順 木阿△非衆兩人可仰、
一四七五	文明〇七・維摩會	一、於一乘院家借用注文御領狀分、(中略)茶湯具△釜 風呂 下水 水指 杓、
一四七五	文明〇七・維摩會	〔前略〕△紫縁同次公所△茶湯釜在之、
一四七六	文明〇八・〇四・二一	一、新茶二十袋自己心寺進之、
一四七六	文明〇八・〇四・二三	一、友清仕丁息參、(中略)茶臼屋之友長仕丁為猶子相統之間、成仕丁了、(後略)、
一四七六	文明〇八・〇四・二六	一、大宅寺下司山村武藏公胤慶參申、(中略)為六方近所茶屋ニ申付之、以勸進可沙汰候、可得其意之由儀也、去廿四日晝狀也、彼茶屋事、相尋下司之處、自道△東方大宅寺領内也云々、(中略)為下司彼在所之茶屋兩所候、其物ニ申付可沙汰之旨申之、誠有其実者可為珍重者也、
一四七六	文明〇八・〇五・三〇	正月御茶△或瓶子等△、(中略)臨時、花見一献 夏中手習茶 松茸事、(後略)、
一四七七	文明〇九・〇四・二〇	一、茶頭清賢法橋、昨日松林院僧正沙汰也、但是△
一四七七	文明〇九・〇四・二七	一、自櫛本法正寺(正法)寺新茶廿袋例進也、知院十袋分也、
一四七七	文明〇九・〇六・二四	一、己心寺古茶五袋進之、
一四七七	文明〇九・〇七・〇一	一、一乘院茶事、頭東北院僧正今日致沙汰、禪閣并隨心院殿入御云々、(後略)、
一四七七	文明〇九・〇八・〇一	一、今日到來分、(中略)茶十五袋△宣舜、茶二十袋△繼舜法橋、茶二十袋△専実、…茶十袋△上、己心寺△、…茶三十袋東林院、(後略)、
一四七七	文明〇九・〇九・〇二	一、訓英茶筒△曳物ニ・湯山柳枝進之、昨日より參籠云々、
一四七七	文明〇九・一二・二六	一、炭一荷越智進之、茶廿袋浄土坊主持来、内山中院卷敷進之、
一四七八	文明一〇・〇一・〇一	一、自松林院僧正方茶十袋例進也、

一四七八	文明一〇・〇一・〇四	一、茶始在之、懸物等如例也、
一四七八	文明一〇・〇一・〇五	一、茶一器・一鉢清賢法眼持參、
一四七八	文明一〇・〇一・〇九	一、自淨土寺曳茶二器送船候、油煙一廷返報、
一四七八	文明一〇・〇四・〇二	一、内山智恵光院之新茶五袋勸進所進之、
一四七八	文明一〇・〇四・〇五	一、新茶三十袋己心寺進之、
一四七八	文明一〇・〇五・二七	一、市（櫟）本正法寺茶二十袋到来、
一四七八	文明一〇・〇八・〇一	英、 一、今日諸進物事、茶二十袋（專寒）、二十袋（繼舞）、十五袋（宣舞）、十五袋（泰弘）、…十袋（己心寺）…茶十袋慶
一四七八	文明一〇・〇八・〇二	一、一乗院殿茶事、頭修南院僧正也、陽明入道入御、及夜隠（陰）大酒云々、
一四七八	文明一〇・〇九・一〇	一、己心寺より十口一盆茶一種進之、
一四七八	文明一〇・一二・二八	一、己心寺巻数・炭一荷到来、大工チリ取一進之、淨土寺坊主茶二十袋持參、見參了、
一四七八	文明一〇・一二・二九	一、長屋納所（茶力）袋二十袋進之、
一四七八	文明一〇・一二・三〇	一、駢舞茶十袋持參之、
一四七八	文明一〇・一〇・〇二	一、東林院茶五袋、愛千代油煙一廷遣之、
一四七九	文明一〇・一〇・〇四	一、一切経納所興弘擬講植一双・円鏡一面・菓子一盆・恒例吉茶十袋持之、壇紙十帖給之、
一四七九	文明一〇・一〇・〇七	一、新淨土寺より茶二種進之、半帖二帖返報、
一四七九	文明一〇・一〇・〇八	一、於新御所茶在之、
一四七九	文明一〇・一二・一八	一、福智院地藏堂領田畠以下納帳、（中略）一所 百五十文（鶴ニアリ、茶屋ノ弥阿弥陀仏沙汰也、三辻ノ北カト、（後略）、
一四七九	文明一〇・一二・一九（前略）	一、新茶二十袋己心寺より進之、先日智恵光院茶五代（袋）到来、

一四七九	文明二・一〇四・〇九	一、昨日茶頭十足下行、今日御後見調達也、
一四七九	文明二・一〇四・一〇	一、茶頭専実沙汰也、
一四七九	文明二・一〇五・〇三	一、己心寺使僧茶一器持来、無為礼云々、
一四七九	文明二・一〇五・一七	一、機本正法寺新茶二十袋進之、恒例者也、
一四七九	文明二・一〇七・二五	一、自法花寺長老御分物ニ舍利殿一・茶洗盆一給之、殿ハ仏地院孝俊所持殿也云々、畏入之由申入了、
一四七九	文明二・一〇八・〇一	(前略)茶廿袋上座法眼、茶十袋己心寺坊主、茶十五袋泰弘寺主、茶十五袋宣舜維那、茶廿袋専実寺主、(後略)、
一四七九	文明二・一〇八・〇一	一、今日支配、(中略)茶二十袋訓英、(後略)、
一四七九	文明二・X九・〇五	一、内山中院瓶子一双・一盆、浄土寺坊主曳茶一器持来、各参風呂了、
一四七九	文明二・X九・二一	一、松殿上洛、御唐櫃一荷悉皆・雨皮上・御茶堦△△、進上、五个所一人参申、
一四七九	文明二・一二・二九	一、長屋納所恒例茶二十袋進之、
一四七九	文明二・一二・二九	一、浄土寺茶二十袋持来、見参了、
一四七九	文明二・一二・三〇	一、驛舞寺主茶十袋持参申、
一四八〇	文明二・二〇一・〇一	一、茶十袋自松林院到来、恒例之儀也、
一四八〇	文明二・二〇一・〇四	一、茶初在之、如形懸物三種出之、
一四八〇	文明二・二〇一・〇八	一、茶在之、候人等申沙汰也、
一四八〇	文明二・二〇一・〇九	一、自浄土寺曳茶三種送給之、雑紙三束返報了、一、茶在之、
一四八〇	文明二・二〇一・一九	一、茶在之、予仰付之、
一四八〇	文明二・二〇一・二一	一、茶在之、
一四八〇	文明二・二〇一・二三	一、茶在之、
一四八〇	文明二・二〇一・二六	一、茶在之、

一四八〇	文明二・二〇・二一	一、茶在之、於愛千代部屋、
一四八〇	文明二・二〇・二五	一、茶在之、於愛千代部屋、先日返報也、
一四八〇	文明二・二〇・二八	一、新供同音論在之、二十口皆參、五卷時分茶献之、御承仕最如例、仏供・燈明仰付之、供料納所慶英律師、
一四八〇	文明二・二〇・四八	一、茶頭仰付之、
一四八〇	文明二・二〇・四九	一、茶頭清賢法眼、
一四八〇	文明二・二〇・八〇一	一、八朔方：茶二十袋繼舞法眼、茶十袋宣舞、茶十五袋泰弘、…茶十袋已心寺、(中略)筆十菅(管)東林院へ返報茶十五袋、
一四八〇	文明二・二〇・八〇五	一、自己心寺茶二十袋・百疋進之、院領事今度仰堤無為礼云々、
一四八〇	文明二・二二・二八	一、浄土寺坊主茶二十袋被隨身、見參、
一四八一	文明三・一〇・一〇一	一、松林院僧正例進茶十袋送給之、以書狀返事了、
一四八一	文明三・一〇・一〇四	一、一切経納所興弘擬講權一双・円鏡一面・昆布別進也、茶十袋恒例進物也、見參、盃給之、
一四八一	文明三・一〇・一〇四	一、十種茶初如形有之、
一四八一	文明三・一〇・一〇八	一、楠葉新衛門来、古市所茶頭金銀之折以下大儀無是非云々、各夜在之、
一四八一	文明三・一〇・一〇	一、浄土寺殿曳茶三器進之、返報半疊二帖遣之、
一四八一	文明三・一〇・一〇	一、於東林院茶在之、
一四八一	文明三・一〇・一六	一、古市茶頭、昨日大会云々、
一四八一	文明三・一〇・二三	一、茶在之、権僧正興行也、
一四八一	文明三・一〇・四〇八	一、小塔院茶一筒、極楽坊同、并随求タラニ頓写持參了、
一四八一	文明三・一〇・四・二〇	一、榎一双・麵一盆・茶子一折・曳茶一器浄土寺沙汰也、
一四八一	文明三・一〇・四・二〇	一、曳茶一器・餅一盆・菓子一盆小塔院進之、
一四八一	文明三・一〇・四・一五	一、大安寺長老被来、見參、曳茶隨身、

一四八一	文明一三・〇四・一八	一、新禪院使者僧來、曳茶・大樂器一持參、見參了、五智光院・專心五師・融算・泰俊・顯融參申、
一四八一	文明一三・〇四・二三	一、盆、 ^ハ 十文、茶十袋自己心寺送給之、
一四八一	文明一三・〇四・二三	一、今日三七日也、(中略)辰巳坊曳茶持參之、諸僧各十疋、本尊等三十疋、聖共四人召之、八疋下行云々、
一四八一	文明一三・〇四・二三	一、慶英律師引茶并一鉢進之、
一四八一	文明一三・〇四・二七	一、食籠一・茶一器西向進之、
一四八一	文明一三・〇七・一一	一、淨土寺坊主來、茶一器進之、
一四八一	文明一三・一〇・〇五	一、己心寺良文房來、茶二十袋・百疋持參、見參了、
一四八一	文明一三・一〇・二五	一、新禪院使者僧茶十袋持參、反錢事可為如前々之由仰、畏入云々、
一四八一	文明一三・一二・二八	一、淨土寺坊主茶二十袋持參、
一四八一	文明一三・一二・三〇	一、茶二十袋長屋納所進之如例、十袋莊舞進之、
一四八一	文明一四・〇一・〇一	一、松林院得業兼親恒例茶十袋進之、返事遣之、
一四八一	文明一四・〇一・〇四	一、一切經納所興弘律師茶十袋持參、別進、又檣一双・円鏡・昆布、一段之志也、(後略)
一四八一	文明一四・〇一・〇四	一、十種茶在之、
一四八一	文明一四・〇一・一〇	一、自淨土寺曳茶三器進之、返報杉原五帖、
一四八一	文明一四・〇一・一〇	一、於宮壽丸部屋茶在之、
一四八一	文明一四・〇一・一一	一、己心寺僧曳茶一器持參、見參、
一四八一	文明一四・〇一・二四	一、茶在之、
一四八一	文明一四・〇二・〇六	一、夜前茶在之、宮壽丸興行也、
一四八一	文明一四・〇四・二三	一、新茶二十袋昨日自己心寺進上之、
一四八一	文明一四・〇八・〇一	(前略)茶十袋己心寺進之、(中略)茶二十袋繼舞法眼進上、

一四八二	文明一四〇八・一六	一、東門院僧正來、茶事ニ參申云々、自六月一日百个日社頭籠、去十二日退出、
一四八二	文明一四・一二・二九	一、淨土寺坊主茶二十袋持參、
一四八二	文明一四・一二・三〇	一、光林院茶二十袋進之、
一四八三	文明一五〇一・〇四	一、一切經納所興弘律師參上、(中略)指櫃一荷・円鏡一面・布三卷(別進物也)・上器(品)茶十袋(納所役也)、
一四八三	文明一五〇一・〇四	一、茶初如例、懸物三種、
一四八三	文明一五〇一・〇五	一、昆布一鉢・引茶一器清賢持參、
一四八三	文明一五〇一・二〇	一、京上人夫高田庄・倉庄・若槻・横田庄各一人、両家門櫃一荷・串柿各進之、南御方茶十袋進之、
一四八三	文明一五〇一・二〇	一、自淨土寺曳茶三種送給、扇一本遣之、
一四八三	文明一五〇一・二〇	一、東門院來、於新御所十種茶在之、
一四八三	文明一五〇一・二四	一、茶在之、
一四八三	文明一五〇四・〇八	一、茶頭予、連歌初之、
一四八三	文明一五〇五・二〇	一、自昨日善勝寺之勸進久世舞於西伝(転)害初之、六方下知、祇園郷ニ茶屋之カサリ仰付之、大儀之沙汰也云々、
一四八三	文明一五〇六・二〇	一、己心寺僧來、(中略)彼寺迎僧可來問、茶盛可有之、梅屏風借用云々、彼寺衆僧共定而不可為本意、不律之僧共也、
一四八三	文明一五〇八・〇一	一、白布一反肆舞寺主進之、茶二十袋上座法眼、櫃一双・一盆訓英得業、瓶子一・盆一慶英律師、
一四八三	文明一五〇八・〇一	一、己心寺茶十袋進之、第一・上リ二足次郎進之、
一四八三	文明一五・一二・二七	一、淨土寺坊主茶二十袋持參了、
一四八三	文明一五・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、
一四八三	文明一五・一二・三〇	一、肆舞寺主茶十袋進之、
一四八三	文明一五・一二・三〇	文明十五年十二月反錢七十二貫文内(中略)百文茶初、

一四八四	文明一六・〇一・〇一	一、同（松林院）恒例茶十袋被進之、珍重之由可仰明日也、
一四八四	文明一六・〇一・〇四	儀也、 一、一切経納所恒例進物吉茶十袋持参之、別進檻一双・円鏡一面・昆布・見参、一器給之、扇一本給之、別段
一四八四	文明一六・〇一・〇四	一、茶始在之、懸物三種出之、毎事如例也、
一四八四	文明一六・〇一・〇八	一、自浄土寺曳茶三種進之、扇一本遣之、
一四八四	文明一六・〇一・二〇	一、茶在之東門院僧正来、
一四八四	文明一六・〇一・二一	一、己心寺坊主代官曳茶一器持来、見参了、
一四八四	文明一六・〇一・二七	一、於專重之部屋十種茶在之、
一四八四	文明一六・〇二・〇九	一、明日色々手分共注文出之了、泰弘相触之、（中略）御前御茶湯 春阿ミ 次殿分 伊予守 理阿ミ、（後略）、
一四八四	文明一六・〇四・〇五	一、北国下向商人朝倉下野守之披官人云々、（中略）慈心院方：畑茶一斤（十袋也）、
一四八四	文明一六・〇四・〇八	一、夏中舍利講等初之、茶頭予仰付之、連歌発句予、
一四八四	文明一六・〇四・〇九	一、興弘律師宇治粽一盆進上之、昨日自己心寺新茶進之、恒例者也、
一四八四	文明一六・〇四・二一	一、昨夕元興寺郷無縁堂之茶屋坊主之子ニ、古市之小坊博奕銭ヲ催促、子無沙汰之間対父茶坊責之、子ノ借物親不存旨申合之間、貝塚之者罷出了、（中略）茶屋坊主（父）、無越度者也、（後略）、
一四八四	文明一六・〇五・〇四	一、夢相、後夜以後之夢也、（中略）色々茶子ヲ物之葉ニ入テ、サテ茶子妙花寺殿・蜜乘院殿・予是ヲ賞翫了ト夢了、
一四八四	文明一六・〇八・〇一	一、今日儀白布一反舛舞進之、…茶二十袋繼舞法眼、十袋己心寺、（後略）、
一四八四	文明一六・一二・二九	一、浄土寺坊主茶二十袋持参、
一四八四	文明一六・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、舛舞十袋進之、
一四八五	文明一七・〇一・〇四	一、茶初懸物三種、人数十八人、

一四八五	文明一七・〇一・〇四	一、一切經納所茶十袋并別進色々在之、扇一本給之、寺務御瓶子進之云々、壇紙十帖給之云々、
一四八五	文明一七・〇一・一一	一、夜前十種茶在之、東門院僧正參申、
一四八五	文明一七・〇二・一一	一、御前召御茶湯木阿、次勸伊予守・理阿ミ、
一四八五	文明一七・〇四・〇八	一、茶頭予仰付之、十足下行、
一四八五	文明一七・〇五・一五	一、雜説云、山伏數十人猿沢池之西辺ニ出来、於茶屋茶吞之、至太刀辛ヲ辺則不見云々、彼茶錢ハ木葉以下者也云々、
一四八五	文明一七・〇七・二三	一、良家業於社頭大般若帳説之、(中略)茶湯ハ東林院可沙汰之由申云々、五人会合云々、(後略)、
一四八五	文明一七・〇八・〇一	一、古市代官室參申、(中略)專実茶廿袋、繼舜同廿袋、(中略)己心寺茶十袋、長教房榼一荷・一盆(茶返報十袋)
一四八五	文明一七・〇八・〇三	一、西忍入道一昨日渡唐船入目日記持来、:百貫スミ・木・油・榼・ラウソク・茶・色々事・ミソ・シオ、:茶子ノ果子(後略)、
一四八五	文明一七・〇八・〇七	一、西忍来、先日進上渡唐相殘記持来、(中略)茶廿五兩(二百五十目)、(後略)、
一四八五	文明一七・一二・〇五	一、染田寺坊主律師□茶并杉原十帖持參之、見參了、
一四八五	文明一七・一二・二八	一、浄土寺坊主茶二十袋持參、昌懷律師・嚴損・瓜生・山村參申、炭一荷新禪院、
一四八五	文明一七・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、
一四八六	文明一八・〇一・〇四	一、茶初在之如例、
一四八六	文明一八・〇一・〇五	一、清賢法眼茶一器・一鉢進之、
一四八六	文明一八・〇一・〇九	一、浄土寺曳茶三種進之、扇一本返報云々、
一四八六	文明一八・〇四・〇三	一、去月新茶智恵光院五袋・己心寺二十袋進之、
一四八六	文明一八・〇八・二六	一、專実一昨日上洛、今日下向了、(中略)五条西洞院一丁余焼、水上栗師之前茶屋焼之、(後略)
一四八六	文明一八・〇九・一一	(前略)扇注文(中略)一本茶初、(後略)、

一四八六	文明一八・〇九・二一	禪定院南之龜次第、(中略)次因幡領、茶菌、法眼領、(後略)、
一四八六	文明一八・一二・二七	一、浄土寺坊主昨日茶二十袋持参了、
一四八六	文明一八・一二・二九	一、古市胤榮・澄胤兄弟、昌懷律師(二面・一瓶進之、実英炭一荷進之、泰俊・祐松・加賀公・清宣・延春大・正意、英遷法印茶二十袋進之、
一四八七	文明一九・〇一・〇四	一、一切經納所権律師興弘参申、(中略)榼一双・円鏡一面持参、別進也、茶十袋進之、納所役也、(後略)、
一四八七	文明一九・〇一・〇五	一、茶初在之、懸物扇二本・チリ取、一献等如例、
一四八七	文明一九・〇一・一一	一、己心寺坊主代官茶一器持参之、
一四八七	文明一九・〇三・一七	一、智恵光院茶五袋進之、
一四八七	文明一九・〇四・〇三	一、昨日自己心寺新茶二十袋進之、又良通房二八嶋田問事問答之、
一四八七	文明一九・〇四・〇八	一、同連歌手習茶頭仰付之、
一四八七	文明一九・〇五・〇九	一、夜入社参、各步行、東門院参籠所茶進之、百个日参籠中也、(後略)、
一四八七	文明一九・〇五・一五	一、千部論学侶・六方於四恩院説之、七今日、茶寺門十六納所共所役、兼日相催云々、(後略)、
一四八七	文明一九・〇六・三〇	一、小五月方可入分、(中略)正月五日上品御茶十袋、毎月供御茶用途河口庄給主以下方三百宛、
一四八七	長亨〇一・〇八・〇一	一、筵十枚、(中略)茶二十袋(專實)、廿袋(上座)、十袋(己心寺)、(後略)、
一四八七	長亨〇一・〇八・〇二	一、茶二十袋遺慶英律師方了、
一四八七	長亨〇一・一二・二八	一、浄土寺坊主茶二十袋持参之、
一四八八	長亨〇二・〇一・〇四	一、一切經納所興弘律師茶十代(袋)進上之、恒例也、榼一双・円鏡一、果子一盆別進也、見参、扇一本給之、相語、慈恩院一昨日(二日)、下向、自江州云々、(後略)、
一四八八	長亨〇二・〇一・〇四	一、東門院僧正瓶子一双・串柿・盆一持来、見参、一献在之、各付衣、今夜茶初二可祇候云々、今日被参一乗院云々、
一四八八	長亨〇二・〇一・一二	一、京上人夫倉庄・出雲庄・小大田庄・川合庄・薬師寺郷三人・七郷一人、(中略)茶十袋(直志院殿)、
一四八八	長亨〇二・〇一・一八	一、東林院番匠召仕之、四郎太郎、茶湯棚云々、近日成就院山水之亭立直之了、

一四八八	長亨〇二・〇三・二三	一、昨日己心寺新茶二十袋進之、先日智恵光院より五袋進之、
一四八八	長亨〇二・〇七・〇五	一、專實寺主弁才天講米借用之、(中略)茶公事錢ハ毎年二貫文、近來不知行、六方違乱故也、サコノ公事ハ四百五十、三月廿五日必進上云々、
一四八八	長亨〇二・〇八・〇一	一、今日進物、松林院分生蓮十枚・瓶子一双・赤粥・麩・菓子・若根・御坏等、(中略)茶十袋(己心寺)、同十五袋、(宣愛)、同廿袋、(後略)、
一四八八	長亨〇二・〇八・〇二	一、茶二十袋遺慶英方、スミニ延道昌懷方了、
一四八八	長亨〇二・一〇・一二	一、盆二・茶自小塔院給之、京衆御座時分一段悅入旨仰了、字恩一瓶・一盆持參、見參了、自淨土寺蜜柑一盆進之、
一四八八	長亨〇二・一一・一六	一、三条揚茶屋以下佛地院百姓方、仰堤催促之、
一四八八	長亨〇三・〇一・〇一	一、小供御次於寺務御所酒・茶等在之、扇一本雜紙給之、
一四八八	長亨〇三・〇一・〇四	一、一切經納所權律師興弘茶十袋、恒例也、別進榼一双・円鏡・果子一盆各持參申、見參、盃給之、扇一本同給之、一切經兩使元旦夕方上洛云々、(後略)、
一四八八	長亨〇三・〇一・〇四	一、茶初、懸物紙一束・扇二本、
一四八八	長亨〇三・〇四・〇〇	一、所々茶進上事
一四八八	長亨〇三・〇四・〇八	一、同日次連歌如例年、今日茶頭仰付之、
一四八八	長亨〇三・〇四・一一	一、己心寺新茶二十袋進之、先日内山智恵光院五袋例進到来、
一四八八	長亨〇三・〇六・二六	一、当年木津御間船召仕事、(中略)当年既以及四个度、惣而船ハ二艘も三艘御間出也、船方入目ハ御童子共所行也、茶湯等事同沙汰、御童子ハ十人分在之、常任(住)之指渡ハ御間悉皆所行也、
一四八八	長亨〇三・〇七・二五	一、橘寺僧(十穀也)、太子傳持來読之、無殊事、茶三十袋進之、相語、石像弥勒ハ多武峯西口二在之、(後略)、
一四八八	長亨〇三・〇八・〇一	一、白布一反 駐舞法橘恒例 茶十五袋 宣舞茶廿袋 專實 茶十袋 己心寺 筆十官(管)
一四八八	延徳〇一・一二・二九	一、長屋納所茶二十袋進之、
一四八八	延徳〇一・一二・三〇	一、權上座駐舞茶十袋持參、

一四九〇	延徳〇二・〇一・一一	一、己心寺代官良通房茶一器持参、見参了、
一四九〇	延徳〇二・〇二・二五	一、染田天神坊主招題(堤)僧也、今度依多田乱無住所、当院弥勒御堂二住了、弟子ハ寛円之息也、廿三日より祇候、先日茶十袋持参了、
一四九〇	延徳〇二・〇八・〇一	一、今日進物、(中略)茶十袋(己心寺)、十五袋(宣舜)、二十袋(專實)、
一四九〇	延徳〇二・一二・一三	一、長谷寺奥院坊主陽禪房来、茶二十袋持参、見参了、新御所同進之、
一四九〇	延徳〇二・一二・二七	一、己心寺炭一荷進之、
一四九〇	延徳〇二・一二・二七	一、浄土寺茶二十袋持来、法花寺長老入御、
一四九〇	延徳〇二・一二・三〇	一、宗観房律師一面・一瓶進之、舜善房得業炭一進之、長屋納所茶二十袋進之、経師御経進之、
一四九〇	延徳〇二・一二・三〇	一、葬葬法橋茶十袋以興舜寺主進之、
一四九一	延徳〇三・〇一・〇四	一切経納所興弘僧都参申、茶十袋恒例也、別進榼一双・一盆・一面、見参、扇一本別而給之、非恒例、納所以前より儀也、
一四九一	延徳〇三・〇一・〇四	一、茶初在之、紙一束・扇二本出之、東門院候、
一四九一	延徳〇三・〇一・〇九	一、自浄土寺坊主方曳茶三種送給之、扇一本遣之
一四九一	延徳〇三・〇一・一一	一、己心寺僧曳茶持来、
一四九一	延徳〇三・〇二・二三	一、山茶屋昨日・今日地引也、自明日番匠云々、
一四九一	延徳〇三・〇二・二七	一、今日山茶屋柱立云々、
一四九一	延徳〇三・〇四・〇八	一、茶頭予仰付之、
一四九一	延徳〇三・〇八・〇一	一、昌懷律師瓶子一双・一盆進之、扇一本給之、慶英律師瓶子・一盆進之、茶十袋遣之、訓英擬講榼一双・一盆進、茶十袋遣之、
一四九一	延徳〇三・一二・二五	一、浄土寺巻敷到来、又坊主茶二十袋持参之、
一四九一	延徳〇三・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、返事、
一四九二	延徳〇四・〇一・〇〇	一、茶公事錢六方書状到来、(後略)、

一四九二	延徳○四・〇一・〇四	一、茶初如例、紙・扇二本出之、
一四九二	延徳○四・〇一・〇六	一、自浄土寺引茶三種送進之、扇一本遣之、
一四九二	延徳○四・〇三・一四	一、当門跡座茶売公事銭事、先年定使正陣法師之代官豊田中間、於寺内中院辺商人与彼代官高声二問答事在之、不可然旨六方及評定、定使正陣之住屋被進発了、其以後此事無沙汰也、為門跡不便旨、此間六方二令披露間、如元可有御知行之由返事到来、珍重々々、 就茶公事儀御披露之趣、意得申候、如元（先）規為御奉行可被成御下知之旨、得其意之由洩可有御披露旨、六方集会評定候、恐々謹言、 三月十四日 六方衆等
一四九二	延徳○四・〇四・〇三	伊予寺主御房 一、古茶一器・新茶二十袋己心寺進之、先日内山智恵光院新茶五袋到来了、
一四九二	明応○一・〇八・〇一	一、松林院筵十枚（中略）宗観律師一瓶・一盆進之、茶十袋遣之、長教擬講檣一荷・一盆進、茶二十袋遣之、己心寺茶十袋進之、
一四九二	明応○一・〇八・一三	一、西大寺長老所勞之間、先日辞退之、隱居菅原寺畢、隨而昨日北室之一人入院、茶在之、絵風冷以下自浄土寺借用申、今日用敷、昨日遣之、
一四九二	明応○一・〇九・一七	一、慈恩院僧都来、一門御使也、慈恩会事、來十一月可被始行候、無相違者可目出云々、得其意旨申了、今日彼門跡茶頭満參云々、
一四九二	明応○一・一二・三〇	一、茶二十袋長屋納所進之、
一四九二	明応○一・一二・三〇	一、興舜茶十袋持參申、
一四九三	明応○二・〇一・〇四	一、茶初如例、懸物三種出之、
一四九三	明応○二・〇一・一一	一、己心寺代官僧来、曳茶進之、
一四九三	明応○二・〇一・二九	一、新禪院坊主并地藏院来、見參、蜜柑并曳茶進之、寺家御訪可申云々、
一四九三	明応○二・〇二・〇四	一、山茶屋以東之垣加修理者也、
一四九三	明応○二・〇八・〇一	一、（前略）茶二十袋 専実、茶二十袋 宣舜、（中略）一瓶・兩種 香舜律師 則茶十袋遣之、（中略）己心寺より茶十袋進之、
一四九三	明応○二・〇九・〇八	一、今日一乗院殿茶事帰參云々、

一四九三	明応〇二・一一・一六	一、己心寺茶十五袋進之、
一四九三	明応〇二・一二・三三	一、春比敷弁井山近辺所々放火事件在之、山村持分水船茶屋二間・椿・尾持分下宮拝殿焼之、仍為兩人沙汰立高札申畢、(後略)、
一四九三	明応〇二・一二・三五	一、浄土寺坊主茶二十袋以宗賢房進之、
一四九三	明応〇二・一二・三〇	一、吉田父子各木一荷進之、光林院茶廿袋進之、
一四九三	明応〇二・一二・三〇	一、水般(船)茶屋二間(山村)、椿尾下宮拜殿
一四九四	明応〇三・〇一・〇七	一、浄土寺引茶三種進之、願一本遣之、
一四九四	明応〇三・〇一・一一	一、引茶一器己心寺代官持参了、
一四九四	明応〇三・〇二・二二	一、法花寺殿より茶子一盆送給之、喜悅旨返事申、
一四九四	明応〇三・〇二・〇六	一、(今宮殿神供方ニ寄之)荒島地子一貫文之内、不思議之辻子分近日如元開之間、道分二百文引之、仍九百文地子也、自此春百姓ヲ改之了、此島ハ自昔代門跡知行也、南ニ不思議之辻子アリ、東ハ川、北モ川、西ハ類地也、故因幡法眼隆舜申請成茶園、鹿園ニテ不成立之間返進申、其後下北面舜信ニ預之、去年入滅之間召上直務也、此地之南不思議辻子之南ハ、舜信代々私領也、近年ハ他所ニ知行云々、
一四九四	明応〇三・〇二・二七	一、(前略)自小弼方遣朝倉方物、段子五反・盆二枚・香合一・茶垵・花瓶一・太子(刀)一振也、(後略)、
一四九四	明応〇三・〇三・三三	在家之南也、自兼日火屋以下用意之、己心寺殿以後ハ此在所今度又用之、年久之間此間ハ茶園・島等ニ令沙汰云々、(後略)、
一四九四	明応〇三・〇四・〇二	一、僧例阿弥茶十袋持来、訪申之、
一四九四	明応〇三・〇四・〇七	一、茶五袋内山智恵光院勸進進之如例、
一四九四	明応〇三・〇四・一八	一、中宮寺殿御使茶・折二合送給之、
一四九四	明応〇三・〇三・三〇	一、新禪院坊主蜜柑一盆・茶持来、
一四九四	明応〇三・一二・二〇	一、宇多郡普賢寺領石田庄之内栢名事、(中略)茶園在之、茶四十斤計在之、
一四九四	明応〇三・一二・二五	一、浄土寺坊主代官宗賢房来、茶二十袋進之、
一四九四	明応〇三・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、
一四九四	明応〇三・一二・三〇	一、興舜茶十袋進之、

一四九四	明応〇三・一二・三〇	(前略)山茶屋一宇、
一四九四	明応〇三・一二・三〇	一、座敷道具、(中略)茶臼一(元ヨリ在之)、(中略)茶湯棚一間(槻、松林院物也、
一四九五	明応〇四・〇一・〇四	一、興弘法印恒例楯一双・円鏡・果子・茶十袋持参・并節分札扇一本・杉原十帖・水指一進之、見参、恒例扇一本給之、
一四九五	明応〇四・〇一・〇四	一、茶初在之、懸物雜紙・扇二本、七所勝負人衆、予東林院、(後略)、
一四九五	明応〇四・〇一・〇五	一、曳茶一器・一鉢清円持参申、
一四九五	明応〇四・〇一・一一	一、自己心寺代官曳茶一器進之、見参、
一四九五	明応〇四・〇一・一一	一、自浄土寺曳茶三器進之、扇一本遣之、
一四九五	明応〇四・〇一・二二	一、己心寺坊主曳茶一器・百疋持参、今度礼云々、
一四九五	明応〇四・〇一・二五	一、新禅院坊主子弟参、曳茶・蜜柑一盆進之、
一四九五	明応〇四・〇一・二七	一、橘寺使節僧茶十袋持来、見参了、
一四九五	明応〇四・〇三・〇八	一、良莠房昨日折并茶送給之、
一四九五	明応〇四・〇三・一八	一、内山智恵光院新茶五袋到来、勧進送状在之、
一四九五	明応〇四・一二・一九	一、長谷寺勧進聖五人・奥坊罷上、寺中・寺外所々相勤之、先日衆中二仰事在之、仍勧進自今日其沙汰旨、沙汰衆并方奉書、又一乗院殿へ令申入之、(禅識房 奥方茶二十袋・柿進之、学侶同披露之、先日披露今日各罷上旨成奉書了、
一四九五	明応〇四・一二・三〇	一、長屋納所茶二十袋進之、
一四九七	明応〇六・〇三・二八	一、智恵光院新茶五袋進之如例、
一四九七	明応〇六・〇四・〇〇	一、太郎さ衛門進上年々火箸注文、二前ハ棚之内、一前若君御前、一前同茶所、
一四九七	明応〇六・〇四・二三	一、(中略)昨日自長谷寺召寄之、一条殿御茶十袋進之、条々仰子細御返事申了、
一四九七	明応〇六・〇五・〇一	一、己心寺新茶二十袋昨日進之、
一四九七	明応〇六・〇五・二二	一、清宣得業茶進之、

一四九七	明応〇六・〇八・〇一	一、八朔方長谷寺進物種一積之筒一、昌懷律師瓶子一双・盆・蓮根進之、茶十袋遣之了、己心寺茶十袋、染田寺茶十袋各進之、任祐瓶子一・盆一、宣舜茶二十袋、(後略)、
一四九七	明応〇六・一〇・一六	一、六方蜂起、京修(終)茶屋進発、
一四九七	明応〇六・一一・二三	一、長悟房来、見参、一盆并引茶持参、去月灌頂方借用礼云々、
一四九七	明応〇六・一二・三〇	一、興舜茶十袋進之、
一四九八	明応〇七・〇一・〇四	一、茶初在之、人数十二人賔、一矢数春辰丸、二孫菊、三春満丸、
一四九八	明応〇七・〇一・〇五	一、一切經納所舜行房擬講于時別会五師也、恒例茶十袋進之、若君三袋進之、
一四九八	明応〇七・〇一・〇五	一、曳茶一器并一鉢清円進上、
一四九八	明応〇七・〇一・一一	一、己心寺僧曳茶持参、見参了、
一四九八	明応〇七・〇二・二九	一、染田寺坊主弁才天一福(幅)并茶以下進之、得度礼也、
一四九八	明応〇七・〇四・〇四	一、己心寺坊主杉原十帖・扇一本持参、御徳度礼也、見参、古茶十袋進之、
一四九八	明応〇七・〇四・〇六	一、中宮寺殿御師弟入御、一盆・御茶被持之、此一兩日法花寺二御座、
一四九八	明応〇七・〇四・一〇	一、智恵光院茶五袋到来、又自清円方茶共少々進上之、
一四九八	明応〇七・〇四・二四	一、己心寺新茶二十袋進之、又曳茶一器進之、本ハ茶茶(衍力)十袋進之賔、
一四九八	明応〇七・〇四・二五	一、禪師御房昨朝わうゝゝ、文来参申、御茶進之、今日ハ日中時分御目廻之、殿下毛細々曆なんと御らん分二御目廻之云々、(後略)、
一四九八	明応〇七・〇五・〇三	一、於大安寺御葬礼、火屋・御興以下色々用意己心寺二仰付之、十五貫文下行、杉原十帖・茶境・花瓶一、
一四九八	明応〇七・〇五・二四	一、五七日仏事於己心寺行之、悉皆七貫文下行、(中略)茶二十袋、(後略)、
一四九八	明応〇七・〇五・二五	一、新禅院畑茶二十袋進之、今日請僧云々、
一四九八	明応〇七・〇五・二五	一、伝聞、去十九日下藪分所行一々二不可然事共存之云々、(中略)而番条豊田以下手者罷之、修学者少々罷入間、不進発而西里二下部茶屋在之、如形在所夜二入進発之了、希有事云々、
一四九八	明応〇七・〇六・二六	一、己心寺古茶十袋進之、

一四九八	明応〇七・〇八・〇一	一、一切經新納所昌懷律師白布二反進上、蘆箱事近日取乱子細在之、重而可進上候、念比二申、御悅喜之旨仰了、又此間進上瓶子一雙・一盆・連(運)根進上申、茶十袋遣之了、
一四九八	明応〇七・〇八・〇一	一、榼一雙・一盆・連根訓英律師、茶十袋己心寺、十袋染田、廿袋專実、十五袋宣舜、(中略)上茶二十袋清円、
一四九八	明応〇七・〇九・一〇	一、弁上洛、自直指院殿御所望唐櫓一荷并榼・茶以下部上之、難波申長谷寺觀音述(延)供養同上之、
一四九八	明応〇七・一〇・一〇	一、夜前夢二、順長律師茶境鉢二茶境ニテ造タル物共ヲ入テ持參申、是ハ春行律師遺物ニ進上如意宝珠也、云々、見之ニ今度渡之茶境之色共也、又一寸計ナル造物ヲ一進之、順長ニ造テ可進之由申間、造之之由申、見之ニ茶境也、岩様ナル物也、(後略)、
一四九八	明応〇七・一二・三〇	一、茶二十袋長屋納所、十袋興舜寺主進之、
一四九八	明応〇七・一二・三〇	一、茶進之方、三十袋也、
一四九八	明応〇八・〇一・〇四	一、茶初如例、紙一束・扇二本出之、
一四九八	明応〇八・〇一・〇五	一、曳茶并昆布一鉢同進之、
一四九八	明応〇八・〇一・〇七	一、一切經納所昌懷律師茶十袋持參申、又別進榼一雙・折一合・唐布一合進之、盃給之、扇一本給之、
一四九八	明応〇八・〇一・一七	一、(中略)今日湯ハ尾伏山之巡檢役也、一貫五百文歟、(中略)一、己心寺代官進之、曳茶献之者也、
一四九八	明応〇八・〇二・〇三	一、山茶屋今曉焼之了、(浮脱◆院方衆沙汰、如先度拝殿云々)、
一四九八	明応〇八・〇四・一〇	一、己心寺新茶二十袋、又古茶五袋進之、
一四九八	明応〇八・〇五・一一	一、萱尾寺ヨリ成就院へ上物此間未到来之間、嚴蜜二問答云々、此料所を萱尾押領云々、十市一族也、一貫三百油代、四百五十竹代、新茶二斤瓜二荷也、
一四九八	明応〇八・〇八・〇一	一、頼共到来分大綱如此間、(中略)茶十袋己心寺、遣長教方了、同十袋染田寺、則遣宗觀律師了、(中略)茶廿五袋專実、同十五袋宣舜、(後略)、
一四九八	明応〇八・〇八・三〇	一、竹内殿御上洛、(中略)中御門殿火簀二前献之、直指院殿へ榼一荷・茶十袋事伝進之、(後略)
一四九八	明応〇八・〇九・一六	一、自己心寺曳茶并二盆進之、返事了、
一四九八	明応〇八・一二・三〇	一、(中略)春堯・金剛大夫・学春茶二十袋持參、(後略)、
一四九八	明応〇八・一二・三〇	一、興舜茶十袋進之、

一四九九	明応〇八・二・三〇	一、恵林寺殿松谷辺ニ可有寄宿云々、桶杓、スミ一荷ハセ、曳茶一器、茶境台ヘセ、
一五〇〇	明応〇九・二・〇五	一、於南風呂茶風呂初之、
一五〇〇	明応〇九・二・一四	一、薬風呂至今日十今日、明日水風呂也、
一五〇〇	明応〇九・二・一六	一、自松殿書状到来、堺より也、十三日文也、則返事用意硯ヘ、合璧集二帖・茶筒ヘ、文書袋ヘ、渡之、
一五〇〇	明応〇九・三・〇一	一、竹内光秀百今日仏事在之、雑物・(ウカイ) 茶境并台ヘ、桂掌ヘ、進之、藤菊持参、
一五〇〇	明応〇九・三・〇六	一、一切経納所昌懷律師恒例茶十袋持参、并檣一双・白布一合・果子一盆進之、見参、扇一本給之、
一五〇〇	明応〇九・三・一〇	一、自法花寺茶子一盆給之、昨日返報云々、
一五〇〇	明応〇九・四・〇八	一、太郎左衛門宇治茶持参、
一五〇一	文亀〇一・四・一	一、直指院殿御返事到来、茶御悦喜云々、
一五〇一	文亀〇一・四・一六	一、智恵光院新茶五袋到来、
一五〇一	文亀〇一・四・一八	一、良莠房来、茶二十袋進之、高野可夏籠云々、
一五〇一	文亀〇一・四・二四	一、午廻後長岳寺殿御影态(盗)人取之、又御影・茶境ヘ、取之、極案内者也、
一五〇一	文亀〇一・六・〇一	一、己心寺新茶二十袋進之、古茶五袋別進云々、
一五〇一	文亀〇一・二・三〇	一、年中御米 一、御茶 一、八月神事、
一五〇二	文亀〇二・七・三〇	一、染田寺茶十袋進之、
一五〇二	文亀〇二・八・〇一	一、一切経納所白布二反進之、又瓶子等別進也、茶十五袋遣之、
一五〇二	文亀〇二・八・〇一	一、古市恒例進物大筒・麵・連根・籠三、長教律師瓶子等、宣舜茶十五袋、己心寺十袋、成就院杉原二束、一献如例、
一五〇二	文亀〇二・八・〇三	一、榎・荷・連根・茶十袋一条進之、直指院殿同前、人夫十座、宰領辰市、
一五〇二	文亀〇二・九・一一	一、松木茶屋松一本申出之、殖(植)之、

一五〇三	文亀〇四・〇一・〇二	一、清泉得業曳茶一器持参、
一五〇三	文亀〇四・〇一・一一	一、己心寺坊主来、見参、曳茶持参、
一五〇三	文亀〇四・〇一・二五	一、瓶子・茶一切經納所進之、扇一本遣之、
一五〇四	永正〇一・〇七・三〇	一、染田坊主茶十袋進之、遣宗觀僧都、
一五〇四	永正〇一・一一・一〇	一、極楽坊堯光来、一盆・引茶持、良堯房去月高野山より上洛之由申、
一五〇五	永正〇二・〇一・〇四	一、茶初在之、
一五〇五	永正〇二・〇一・一四	一、(一脱力) 切經納所恒例茶十袋進之、昔ヨリ事也、又別進瓶子等在之、扇一一(衍力) 本遣之、非恒例別儀者也、
一五〇五	永正〇二・〇八・〇一	一、(中略) 茶十袋己心寺、十五袋公文寺主、
一五〇六	永正〇三・〇四・三〇	一、夜前門跡之茶所之飯銅粉(紛) 失云々、番興舜・覺専也、
一五〇六	永正〇三・〇八・〇一	(前略) 己心寺茶十袋進之、
一五〇七	永正〇四・〇一・〇四	一、若宮・大宮神主等社中濟々参賀、見参了、同学等来、扇一本給之、茶在之、
一五〇七	永正〇四・〇一・〇五	一、(八日) 昌懷瓶子一双・唐布・茶十袋・一盆進如例、
一五〇七	永正〇四・〇一・一一	一、己心寺口引茶一器持参了、
一五〇七	永正〇四・〇四・〇九	一、(中略) 四貫二百上番、二百茶タテ、
一四五九	長祿〇三・一一・二三	一、戊下剋安位寺殿俄入御、藤千代殿出家事、予此間令隱蜜、仍無御存知、今日被聞召言悟道断次第也、為一興俄入御云々、十種茶御興行、現物三色(花瓶卓・杉原・茶壺)、春松丸・慶有・經胤令拝領了、一献以下濟々御沙汰迷惑者也、及夜隱還御、
一四五九	長祿〇三・一二・二九	一、元三新宮替物注進奉行取進之、(中略) 元三日并十一日御供茶四百八十文、右注進如件、
一四五九	長祿〇三・一二・三〇	一、長屋庄納所光林院ヨリ御茶廿袋進之、十袋隆舜進之、
一四五九	長祿〇三・一二・三〇	一、梅林庵茶五袋進之、同来、対面了、
一四六八	応仁〇二・〇八・〇四	一、寺住之間御油・御茶湯・一献・入木等加用人夫寺家沙汰也、条々云執行云公坊仰付了、

一四六九	文明〇一・〇九・二六	一、五智光院坊主来、御本地供布施米針庄三石事、自当年直務畏入云々、此一兩年取継方発心院無沙汰故也、如此成敗了、茶以下持参対面了、
	◆◆〇〇・〇〇・二四	一、堤左京参申、見参、扇一本給之、畏入、就中己心寺坊主職事、此間取申入之、(中略)則坊主参申、見参、茶十袋進之、
	◆◆〇〇・〇〇・二一	一、長屋納所茶二十袋進之、
一五〇〇	明応〇九・〇八・二六	昨日於南戒壇院喧嘩出来、中間法師被殺了、一方沙汰者、南鶴松木茶屋之次郎子也云々、則茶屋如法令検断了、(後略)、

註・本年表は『統史料大成』本の編年順に従った。

×は閏月を意味する。

◆◆は和暦不明を意味する。

〇〇は年あるいは月・日の不明を意味する。

『大乘院寺社雜事記』の進上茶表

西暦	茶 数 量	総 計
1457	150 袋、茶 5、古茶 10 袋	220 袋
1458	308 袋、新茶 25 袋、宇治茶 10 袋、茶 3、30 斤、曳茶 1	673 袋、曳茶 1
1459	150 袋、新茶 45 袋、茶 2	215 袋
1460	230 袋、新茶 25 袋、茶 1、新茶 1、引茶 1、茶 1 種	275 袋、引茶 2
1461	340 袋、新茶 45 袋、茶 1、2 盆、2 種、1 筒	395 袋、引茶 5
1462	120 袋、新茶 20 袋	140 袋
1463	75 袋	75 袋
1464	130 袋、茶 1、	140 袋
1465	230 袋、新茶 15 袋、曳茶 3 種、	245 袋、引茶 3
1466	215 袋、新茶 50 袋、古茶 10 袋、茶 1、16 斤、3 種、引茶 1	445 袋、引茶 4
1467	35 袋、新茶 20 袋、曳茶 3 種	55 袋、引茶 3
1468	0	0
1469	120 袋、	120 袋
1470	182 袋、新茶 50 袋、茶 1、引茶 1 器、9 斤	332 袋、引茶 1
1471	145 袋、茶 3、1 糞、10 斤	275 袋、1 糞
1472	145 袋、新茶 15 袋、古茶 5 袋、茶 1	175 袋
1473	125 袋、古茶 10 袋、茶 2、1 器	155 袋、引茶 1
1474	125 袋、茶 1、	135 袋
1475	130 袋、新茶 40 袋、引茶 2、3 種、1 器、10 斤、百疋茶、	280 袋、引茶 6
1476	新茶 20 袋、	20 袋
1477	115 袋、新茶 20 袋、古茶 5 袋、	140 袋
1478	150 袋、新茶 30 袋、1 器、1 種、曳茶 3 器、	180 袋、引茶 5
1479	160 袋、新茶 40 袋、吉茶 10 袋、2 種、1 器、曳茶 1 器、	210 袋、引茶 4
1480	105 袋、曳茶 3 種、	105 袋、引茶 3
1481	110 袋、1 器、引茶 1、曳茶 2、曳茶 5 器、	110 袋、引茶 9
1482	90 袋、新茶 20 袋、曳茶 4 器、	110 袋、引茶 4

1483	100 袋、引茶 1 器、曳茶 3 種、	100 袋、引茶 4
1484	90 袋、吉茶 10 袋、畑茶 10 袋、新茶 1、曳茶 1 器、曳茶 3 種、	120 袋、引茶 4
1485	100 袋、茶 1、	110 袋
1486	40 袋、新茶 15 袋、1 器、曳茶 3 種、	55 袋、引茶 4
1487	85 袋、新茶 20 袋、上品茶 10 袋、茶 1、1 器、	125 袋、引茶 1
1488	55 袋、新茶 15 袋、	70 袋
1489	115 袋、新茶 15 袋、茶 1、	140 袋
1490	125 袋、1 器、	125 袋、引茶 1
1491	50 袋、曳茶 1、曳茶 3 種、	50 袋、引茶 4
1492	40 袋、新茶 25 袋、引茶 3 種、	65 袋、引茶 3
1493	105 袋、曳茶 2、	105 袋、引茶 2
1494	65 袋、茶 2、引茶 3 種、引茶 1 器、	85 袋、引茶 4
1495	60 袋、新茶 5 袋、曳茶 1、曳茶 6 器、	65 袋、引茶 7
1496	記事無	0
1497	60 袋、新茶 25 袋、茶 1、引茶 1、	95 袋、引茶 1
1498	203 袋、古茶 20 袋、上茶 20 袋、茶 5、曳茶 1、曳茶 2 器、	298 袋、引茶 3
1499	100 袋、新茶 2 斤、新茶 20 袋、古茶 5 袋、曳茶 1、曳茶 1 器、	145 袋、引茶 2
1500	10 袋、宇治茶 1、	20 袋
1501	20 袋、新茶 25 袋、古茶 5 袋、	50 袋
1502	45 袋、	45 袋
1503	茶 1、曳茶 1、曳茶 1 器、	10 袋、引茶 2
1504	10 袋、引茶 1 器、	10 袋、引茶 1
1505	35 袋、	35 袋
1506	10 袋、	10 袋
1507	10 袋、引茶 1 器	10 袋、引茶 1

茶 1 = 10 袋、茶 1 斤 = 10 袋、引茶 = 曳茶として、新茶・古茶・宇治茶等の区別はせず、すべて茶として換算した。